読書メモ２０１７年４月号

関良基（せきよしき）著『赤松小三郎（あかまつこさぶろう）ともう一つの明治維新』（作品社）ほか

柳沢克央（やなぎさわかつひろ）　編
（信州・上田仮説サークル）

2017 年 4 月 22 日（土），4 月例会用レポート

◇はじめに

先月号の「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

今月はとにかく「読書予定リスト」の「在庫一掃」を心がけて，「消化吸収」をどんどん進めます。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

◎立川談春著『談春古往今来』（新潮社・平成 26 年・2014 年）（私物）

とにかく大変な本である。噺家の「暇に任せての語り下ろし」かと思って読み始めたら，真逆の「真剣勝負」の連続である。次に気になった部分を引用する。

○…今のところ僕の目標は針のふれを一日も早く九十度にまで近づけることだ。現在四十五度をクリアした手応えを感じている。究極は針が三百六十度ふれて一回転するところにある。プラスに一回転，マイナスも一回転，これは心強い。そうなれたら立川談志を継ごう。世間はきっとこう云うだろう。「今の談志は芸はまだまだだが気違いのところは先代ゆずりだ」と。当代，そんな人生，本望だ。（14 ペ）

（これは立川流の噺家にとっては一大事である。談春が「談志を継ぐのは私だ」と宣言しているに等しい文章だからである。立川流の周辺にこのことで波風が立たないはずがない。こういうことが言い切れる談春氏はこれから，いったい何をどうやっていくのだろうか。目が離せない。）

○…実際自分は劣っていると意識した上で，それでも自己を変えたいという本気があれば，願望を口に出して唱えるのは有効だよ。格好いいことばかり言ってりゃ少しはそれに近づこうと人間努力する。リセットはできないという経験を踏まえて，あらためて覚悟しなおすという意味で，春という季節はあるのではないか。（29 ペ）

○「自分が心に思い浮かべる情景を言葉で伝えて，相手にも浮かべてもらう。もしかしたら洒脱な語りってそういうことじゃないかな」（39 ペ）

○…自分が憧れている落語家が四十の時に何をやっていたか考えると，あまりにみんなずごすぎる。現役の落語家の中では，相対的に自分の芸はいいという自負はありますよ。だけど，今の俺と同い年だった頃，うちの師匠はもう国会議員をやってたわけでしょ。（45 ペ）

○…立川談志がなんですごいのかというと，コアなファン以外は切り捨てる作業ばっかりしてきた。もちろん口で云うのじゃなく，芸の質として。俺はこれからなんだ，まだ何も怖くないんだってことでしょ。若手がやっていることを，七十二でまだやっているんですよ。そういう狙いを明確に持ってやらないと…（46 ペ）

○（談志一門に）入門して，改めてこの人はすごいと思ったのは，すべてのことに答えを出すこと。いいか悪いかは別にして，師匠には答えを出す癖があるんです。世間一般では屁理屈にもならないような暴論でも（笑），僕にとってはすべて体に染み入った。だから素直に従えたし，こういう人になりたいと憧れさせる力がありました。（51 ペ）

○…談春　この前座噺ができれば，組み合わせていくことができるようになる。真打

ネタの「明烏」でも「たらちね」のAの部分，何のBの部分というように組み合わせていくと，技術的にはできるようになるんです。何で落語というのは，最初にすごく難しいものを教えるんだろうと思ったんですが，バイオリンも同じですね。
さだ　同じなんだね。古典と言われるものの宿命かな。（57ぺ）

〇談春　…「お前，何様のつもりだ，お前の考えるようなオールマイティーになんかなれないぞ」とずばっと（さだが談春に対して）言ってくれた。あの言葉はやっぱり間違いないですよね，この頃分かってきたんです。長所を伸ばせばいいんだと。
さだ　それは絶対そう。短所は消えない。消えないから，長所だけで勝負すりゃいいじゃないか，ということなんです。
談春　そこまでなら誰でも言えると思うんです。引っ掛かったのはその後で,「お前ね，歯を食いしばってな，長所だけを五年やってみろ。お前の長所は，人情噺だってみんな言っているんだから人情噺だけやっていろ。五年たったらな，お前が苦手だと思っていた噺もな，うまくなっているよ。長所が上がれば短所も上がるんだ。同じようにな，短所を上げても長所が下がるぞ」と。まあいいや，自分が惚れている人が，ここまで言ってくれて，それでだめだったならしょうがないと，もうあきらめられた。
さだ　俺は師匠のようなことを言うね。
談春　言っているんです。…
（これは故・西川浩司さんの教育論と同じである）

〇さだ　…あんたはね，お客さんに感謝しなきゃだめだと言うの。あなたの芸を見ていると，あなたにはいいお客が付いていると思う。一つ覚えておきなさい，いいお客が付くといい芸人に育つんだ。じゃあ，いい芸人になったらどうやってお返しするかというと，いいお客を育てなきゃだめだ。あんたがいいお客を育てると，あんたの次の芸人をあんたのお客が育てるからと言われたの。…

〇さだ　…時代小説ってSFなんだよな。あれは空想科学小説とそう違わないんだね。
（これを読んでかつての人気テレビ番組「必殺シリーズ」の人気の秘密が「解けた」気がするのでこのテーマで文章を書いてみる予定）

○さだ　…人は自分にないものを求めるよね。噺家もそうだね。だって志ん生の息子が文楽に憧れてさ，小さんの弟子が志ん生に憧れるんだよ，おたくの師匠だけど。だからこの辺の不思議さってあるよね。…（69 ペ）
（談志が志ん生に憧れていたというのはうすうすはわかっていたが，さだ氏がこれを断言してみせたところがすごいと思う）

○…「もちろん嬉しかったけれど『ありがとうございます』だけじゃあれだから，『師匠，じゃ，これ全部書いていいですか』『書け書け，全部書け』って。で，次の回で本当に全部書いたら気に入らなかったのか，電話がかかってきて。『俺だ』『はい』『お前，破門だ』『は？』『お前，破門。どんなに売れててもね，あれどういうつもりだ。破門だ。以上だ』って切られちゃった。あとでこっちから電話をかけて『師匠，申し訳ございませんでした。あそこは全部捏造です』『なに？捏造？ホントは言ってないの？そいじゃわかる。お前が正しい。あの方が面白い』。書く，ということで降りかかってくる火の粉をどう払うのか，他人を書くことへの広がりと覚悟をどう引き受けるのか。そのあたりを師匠として教えようとしてくれていたんですね。…」（77 ペ）

○…結論は，これだけ多くの人が誉めてくれるのだから，『赤めだか』はいい作品なのだろうと。…書くという表現方法にどれ程の体力が必要なのかということがちょっぴりわかったことは今後の己の芸人暮らしにとって大変なプラスになると思います。結びになりますが，今回の受賞を心から感謝します。ありがとうございました。（81 ペ）

○…「今書きなさい，吐き出しなさいという何かがあったんじゃないかな。文芸評論家の福田和也氏に出会う，うちの師匠が病気になる，六代目の柳家小さんが誕生して，いつまでも五代目の話をしていられなくなる。あの時代の話が匂い立つような生々しさを失って，旬が終わる寸前，風化する寸前のベストなタイミングだったのかもしれない」…（82 ペ）

○…「落語は演じたらすぐ消えてしまう。本は作品がしっかりしていれば著者が死んでも残る。刹那刹那，ライブに生きている芸人にとって，原稿を書いて本を出すというのは，本当に貴重な経験でした」（84 ペ）

○…今，自分で弟子を持つようになって感じるのは，相手の進歩に合わせて無理なことを教えなかったのが，立川談志という人の大きさであり，凄さだということ。理解できる状態になるまで，決して背伸びさせない，先を急がない。凄く我慢をして教えてくれていたわけですよ。俺が命懸けで惚れた落語にこんなガキが惚れて，落語家になろうとしているんだ，俺も育ててもらったから，俺も育ててやろうと。それは師匠自身の体験によるものだと思う。（89 ペ）

○「本は力がありますね。本を出さなきゃ会わない人と出会えたり，世界が広がりました。ただ広がり方が深いですけど，その分，もどかしいぐらい遅い。本が売れたって喜んだり，いろんな人が褒めてくれたって言ってますけど，おっきい都市で売れたんであって，それがようやく波及して地方はこれからみたい。広まり方がゆっくりってのは新鮮ですよ。僕らは喋ったら終わりだから」…（93 ペ）

○…芸は超一流。教え方も論理的で丁寧。その反面，気まぐれで，乱暴で，その上誰よりも繊細で傷つきやすい一面を持つ談志師匠。そのナイーブな性格と破天荒な言動に弟子たちは思い切り振り回される。…（94 ペ）

○…今はノーブランドっていうのもあるし，否定するつもりはない。教える様式がなければノーブランドでいい。センスの勝負ですから。松本人志が誰かに何かを教わると言っても，教わることはないでしょ？　落語の場合は教わらないとできない。この教わらないとできないことの弊害もあるけど，世の中 100％害ばっかりじゃないよってね」…（95 ペ）

○…「いてくれるだけでいいって言われる存在になったときに，誰が辛いって自分が一番悔しくて辛いでしょうから。要するに簡単に 160 キロ投げてた人がどんなに投げても 98 キロで『でもその 98 キロに味がある』って言われたらね。『もう要らねえよ』って言われたほうが幸せですよ。淋しいけど」……「だけど 98 キロを見に来る人がまだ五万人いて表にはダフ屋がいるんだから。『150 キロ投げられるようになりました』って別の噺家が言っても『分かった分かった。いいんだ，俺，談志の 98 キロが見た

いんだ』って。そこで毎日戦ってる。しかも自分に折り合いをつけられないドキュメントは談志しか見せられないんだろうな。それを傍で見てられるのはいつかきっと僕にとっても役に立つと思う…」（97 ペ）

〇「勝負に勝ってツキまくっている今だからこそ，リスクを背負わなきゃ。人間は人生を勝ち越そうとするけど，大切なのはどう負けるか。ここで負けても十年後には伝説になっているはずという読みもあるんだけどね（笑）」イベントは大きく打つ。勝ち負けは後からついてくる。これぞ男，である。（98 ペ）

〇落語立川流は，現在談志を含めて四十五名足らず。談春が入門した当時の立川流は十五名程度の小さな集団だった。しかし，その中から志の輔，談春，志らくといった個性豊かな面々が羽ばたいた。理論に裏打ちされた談志の教え，ハンデを逆手に取ったハングリー精神，実力重視の昇進制度など，様々な要因があったからに違いない。（102 ペ）

〇…寝る寝ないではなくて，コミュニケーションに長けていないと，「疑似」でも恋はうまくいかないわけ。吉原ではなく，仲人があって親の決めた人と一緒になるような場合でも，男と女がきちんと出会うのは婚礼の日が初めてのようなものでしょ。そこから情を通じて二人の距離が近づいていく。…（122 ペ）

◎立川談志著『談志の遺言』（宝島社・2016 年）（私物）

「寸鉄人を殺す」という故事成語を思い出させる本。何はともあれご賞味あれ。

〇バカとは状況の判断を間違える奴のことをいう。判断が間違うから，当然，処理が違ってくる。これを「バカ」という。13 ペ

〇辞めてっちゃう奴に“何故辞めたんだ”と問いたい気もしたりする。おそらく想像っていた状況と違っていたんだろう。じゃ，“自分の思った通りになれば居たのか？”，それはどういう状況か。とても考えられないような安直な状況を思ってきたのだろう……。18 ペ

〇欲しいものは取ればいいのに，取りにいかないで“欲しい”という。つまり，欲しくないのだ，といわれても仕方あるまい。文句もいわない，行動も起こさないのは，欲しくないのだ。20 ペ

〇後輩を育てるということは,かつて海のものとも山のものともわからなかった私を,こんにちまで育ててもらった落語界と小さん師匠に対する恩返しであろう。22 ペ

〇ものを教える奴に魅力がなければ駄目なのです。現代は，教えてくれる人，何かを促したり，止めたりしてくれる人がいないのだ。家庭にも，学校にも，社会にも。24 ペ

〇人間の一番必要なことは人間を観る眼なのである。家元その事に人生を賭けてきたのだ。これを怠っているところに現代の問題が存在するのである。33 ペ

〇永六輔は志の輔を誉め,「談志はいい弟子を持った」といったが,「冗談いっちゃあいけねぇ」逆なのだ。「志の輔はいい師匠に恵まれた」のである。38 ペ

〇悩み，考え，挫折し，また演(や)る。49 ペ

〇今は録音があり録画があるけど，どれほど感銘というか，空気感まで伝えられるかわからないからね。あたしの落語は，一期一会でしょうな。64 ペ（伝説の毒舌名指揮者・チェリビダッケの考え方と同じ）

〇新聞なんて浪花節の文句ぢゃないけれど，♪嘘が八分で本当が二分で……でいいのだ。だいたい世の中のことは「虚実」といい,「虚々実々」といって実よりは虚の方が上なのである。128 ペ

〇人間は知性で文明，文化を造ったのではない。ひとえに好奇心のためであろう。だから文明を止める訳にはいかないのだ。138 ペ

○石原慎太郎にいったことがある。“あなたの周りにいる取り巻きは，あなたを偉いと思っているのはいるだろうが，あなたの文学を理解している奴はいないんじゃないかな。私のところにくる奴ァ，あなたにいわせると程度は低いかも知れないが，みんな落語が好きだヨ……”と。150 ペ

○一体何なのだろう，一と口に「選挙民の意識の薄さ」とは言うけれど，なら，何故，選挙民の意識の薄さが生まれたのか。早い話が選挙なんぞ己の生活の問題外だからである。176 ペ

○基本的にゃあ，人間，貧乏してなきゃ国に文句なんてない。戦争がなきゃあいい。202 ペ

○“己は間違っているだろう”と思っている人間は正しい。206 ペ

＊

最近，自分の好みがわかってきた。クセのある酒が好き。クセのある音楽家が好き（メンゲルベルク，チェリビダッケ，アーノンクール，…）。毒のある文章家が好き（山本夏彦，立川談志，…）。この好み，簡単に変わりそうにない。それがいいと思う。

◎古山浩一著『万年筆の達人』（枻（えい）出版社・2006 年）（私物）（3200 円＋税）（私物）

万年筆好きの人たちのために書かれた本。ハードカバーの堂々たる装丁。表紙カバーは特殊な印刷でイラスト部分が立体的に盛り上がったような仕上がりになっている。内容は魅力的な万年筆の売り手，作り手，修理職人，コレクターの紹介。万年筆への愛に満ち溢れているが，大きな普遍性はない。

これに関連した話題。今月は万年筆関連の没原稿を持ってきたので，別に紹介。上田仮説サークルホームページの「資料集」コーナーにもアップしてもらう予定。雑誌投稿では没にはなったけれど，それなりに自負するところはある。あとは，社会に広く公開して，評価を待つことにする。ホームページは本当にありがたい。

◎小山鹿梨子漫画，フランクリン・コヴィー・ジャパン監修『まんがでわかる7つの習慣』（宝島

社・2013 年）

自己啓発本の派生商品。具体的でわかりやすいストーリーとところどころに要点を配置した自己啓発本の解説漫画本。読みやすい。カバー表紙のキャッチコピーをそものまま引用してみよう。

《バーテンダーを目指して修行を始めた歩（あゆみ）。バー「セブン」での様々な出会いを通して，彼女は少しずつ“本物”への階段を上がっていく。歩の生き方，考え方を少しずつ変えたのは，「７つの習慣」だった―。》

「７つの習慣」とは，次の七つ。

第一の習慣　主体的である

第二の習慣　終わりを思い描くことから始める

第三の習慣　最優先事項を優先する

第四の習慣　Ｗｉｎ―Ｗｉｎを考える

第五の習慣　まず理解に徹し，そして理解される

第六の習慣　シナジーを作り出す

第七の習慣　刃を研ぐ

漫画の中に本編に書かれている教訓話が組み込まれている，よくあるタイプの解説本である。たとえば，教訓の例。

「《時間管理》という言葉そのものが間違っている…（中略）…。問題は時間を管理することではなく，自分自身を管理することだからだ」（83 ペ）

「行動の順序を考えるには，人間の活動を重要度・緊急度で分類した四領域で整理すればいい。緊急度は《すぐに対応を迫られるかどうか》，重要度は《人生の目的や価値観にとって重要かどうか》。多くの人は《緊急で重要なこと》に時間を割く。それは当然だ。だが，忙しく疲れもたまるので長続きしない。そのため，ムダな《緊急でも重要でもないこと》に逃げ込みたくなる。コヴィーは，人生を充実させるためには，第二領域《緊急でないが，重要なこと》＝《例：人間関係作り，仕事や勉強の準備や計画，健康維持や自己啓発》により集中することが必要だ，という。ここには成長に役立つ活動や，将来，第一領域《緊急で重要なこと》に入ってくる事柄への準備活動が入る。第二領域を増やすには，第三《緊急だが重要ではない》，第四領域《緊急でも重要でもない》を減らすのがいい。緊急性が高い第三領域を減らすのは，難しいが，そんなときは，自分が中心に置いた原則を思い出す。そうすれば，迷いなく誠実にノー

と言えるのだ」（89 ペ）
「公的成功は，他者を打ち負かして手にする勝利のことではない。関わった全員のためになる結果に達するように効果的な人間関係を築くこと，それが公的成功である」（101 ペ）（柳沢注：牧衷さんの「common」の考え方に似ている）
「人間関係には 6 パターンある。《自分も相手も勝つ》《自分も相手も負ける》《自分が勝ち，相手が負ける》《自分だけの勝ちを考える》《自分が負けて，相手が勝つ》《双方が勝たないなら取引しない》。六つのパターンのどれがいちばんいいのかは，短期的には場面によって違ってくる。仕事で疲れた帰りの電車で老人に席を譲るのは，《自分が負けて，相手が勝つ》だがいい選択だし，わが子の命が危険なときは，他者の利益など一切かまわず，ひたすら《自分の勝ちだけを考える》ことを優先したいと考えるだろう。だが，現実社会では，周囲とはずっと関わり合うのだから，長期的に考えれば，やはり《自分も相手も勝つ》のがベストの人間関係だ。これを成立させるために必要な資質は二つ。自分の勝ちを求めて相手に対し誠実に気持ちを伝える勇気と，相手に勝ちを与える思いやりだ。《自分も相手も勝つ》のが難しい場合，《取引しない》という選択肢が理想となる。互いの価値観や目標が明らかに違うなら，取引を降りる。信頼関係を維持できれば，次の機会に協力できるからだ」（111 ペ）
　なんか，とても良い本を読んだな～と思っていたが，読んでしばらくしたら，きれいに忘れていた。だから，（他の本もそうだが）この本は忘れた頃にもう一度読んでみたいなと思った。この漫画の元になった本編は上田のブックオフに 3～4 冊並んでいるのを見たが，手が伸びるほどではなかった。表紙にイカツイ男の写真が載っていて，ちょっとアヤシイ雰囲気があったからかも知れない。本当に良い本を書きたいという著者の意図が隅々まで行き届いていれば，ああいう表紙はあり得ないと思うのだが…（良くあるアヤシイ「健康食品」の広告とそっくりだから）。
　でも，この漫画は図書館で借りられるのなら借りることをおすすめします。

◎児玉光雄著『勉強の技術―すべての努力を成果に変える科学的学習の極意―』（SB クリエイティブ・2015 年）
　著者は 1947 年生まれ。追手門学院大学客員教授。前鹿屋体育大学教授。専門は臨床スポーツ心理学，体育方法学。年間 70～80 回のペースで講演活動をしている。
　かなり強気で書かれた，破壊力のある「ハウツー本」。篠ノ井高校の新刊本のコーナ

ーで発見。見開き 2 ページで問題提起とその解決を図って進めていく構成にはスピード感があって引き込まれる。気になった（良いなと思った）ところを引用する。この本には「ちょっとオレにはついて行けないな～」と思われる部分もあった。そういうところはスルーして読んだ（たとえば，何事につけ「〇〇カード」というフォーマットを作って自己点検しながら仕事を進めていくところ。そんなことやってる暇があったら他のことをやるよ～と思ってしまった）。引用の下線部は本文では色刷り強調。

＊

〇理屈抜きに勉強の量を稼ぐ

勉強の量を稼ぐ―これにまさる勉強法はあまり見当たりません。量質転化こそ，勉強道の王道です。では，どうやって勉強の量を稼げばいいのでしょうか？　私は勉強の量を稼ぐために，一週間単位で，前もって「何時間勉強に時間を割けるか」をスケジュール帳に記入する習慣をつけることを提唱しています。スケジュール帳に具体的にスケジュールを書き込むことで，実行力が格段に高まるのです。そして断固とした決意で，それをやり遂げることに全力を尽くしましょう。

「願えば夢が叶う」という安直な自己啓発本がたくさん出回っていますが，私はまったく信用していません。願って夢が叶うくらいなら，この世の中は成功者だらけのはずです。でも，現実はそうではありません。もちろん，私は願うことを否定しているわけではありません。願うことにより実行力がつき，その実行力こそが私たちを夢に連れて行ってくれるのです。…（中略）…

「重要だが難しい作業」と「重要ではないやさしい作業」があったとき，10 人のうち 9 人は後者を優先します。すると，後回しになった「重要だが難しい作業」に手をつけられずに終わる確率が高いのです。

朝起きたらまず，あなたがその日やるべき作業に優先順位をつけましょう。もちろん，難易度よりも重要度を優先してください。どうせやらなければならないのなら，重要な作業を最優先して，たっぷり時間をかけてください。（33 ペ）

〇勉強は時間との戦いと心得る

勉強は時間との闘いです。試験の日（ゴール）は決まっているわけですから，着実に残り時間は減っていきます。ですから，ただやみくもに勉強するのではなく，時間という概念を頭の中に強く刻み込んで，効率良く勉強することが欠かせないのです。

私は読書するとき，たとえば「20 分間で，50 ページ読み進める」と自分に語りかけます。すると，見事に脳はその目標を実現してくれます。もしも「20 分間で，25 ページ読み進める」と宣言したら，やはり脳はその速度で読み進んでくれます。

速いスピードで本を読んだり，参考書を理解したりするには，この心構えが不可欠なのです。もちろん，本や参考書によって，個々に最適な読書速度を決定します。その本に即した最適な読書速度を設定することが，あなたを勉強の達人に仕立ててくれます。

私は講演活動で年中移動していますが，すきま時間を活用して読む本や参考書を数冊，バッグに忍ばせて持ち歩いています。付箋紙も常に持ち歩き，その日の最初のすきま時間に本を読み始める箇所に付箋紙を貼り付けて読み進めます。そのすきま時間に読み進めた箇所にも付箋紙を貼り付けます。…（中略）…

もしあなたが，実際にこの作業を行ったら，たぶん，すき間時間の多さにビックリするはずです。私の場合，一日のすきま時間だけを活用して一冊の本を読破することも珍しくありません。一日の中に多く存在するすきま時間をかき集めて勉強時間にあてるのはとても有効な勉強法なのです。（35 ペ）

〇勉強の優先順位を徹底してつける

私はかねがね不思議に思うことがあります。それは，勉強の達人は，頭が良いから受験や資格テストの成功者になれたという神話です。確かに，勉強の達人に頭の良い人が多いことを私は否定しません。しかし，ひょっとしたらそれよりも大切な要因は，徹底して能率的な勉強法をマスターしているという彼らの共通点ではないでしょうか？…（中略）…

効率的な勉強のやり方は人それぞれですが，単純に物理的な勉強時間を増やすことに思案を巡らす人は多いのに，勉強の効率性について真剣に考える人は案外少ないのです。

勉強のための物理的時間を増やすときに，まず対象になるのが睡眠時間です。人には，それぞれの睡眠パターンがあり，一概には言えませんが，どんなに多忙な日でも，私は最低 6 時間の睡眠を取る習慣をしっかり身につけています。

確かに睡眠時間を削れば，物理的に勉強時間を確保することはできますが，肝心の脳の状態が芳しくないため，勉強の効率が上がらず，机に座っている時間が長い割に

は，勉強ははかどりません。（40 ペ）

○「負の強化」をじょうずに使う

…これはモチベーションと大きな相関関係にあるのですが，理想的なことだけを考えているのでは，早晩，壮大な勉強のスケジュールが挫折してしまいます。しかし，それも負の強化という心理スキルを活用すればうまくいきます。負の強化とは，うまくいかないとき,そこに逃げることを防止するために罰を設けることです。たとえば，あなたがダイエットを成功させたかったら，食べたものをすべてメモする習慣を身につけましょう。

食べたものをすべてメモするルールを設ければ，記録することが面倒だから，摂食すればメモする作業が減ると感じて摂食を心掛け，ダイエットに成功するのです。なぜなら，脳はやりたくないことを回避する機能を持っているからです。

これは勉強する気になれない気持ちにも活用できます。スケジュール通りに勉強が進行しなかったときは，必ず，実行できなかった理由を，こと細かに記入する習慣をつけてください。（45 ペ）

○「時間制限法」で速読する

…理解力を高める上で，読書は避けて通れません。また，本を読む作業は，私の仕事であり，本を執筆するという出力作業のために不可欠な入力作業なのです。私は，週単位で読書のノルマを自分に課しています。一週間に最低でも 5 冊以上，年間で少なくとも 250 冊が私のノルマです。このノルマをこなすために，私は長年の読書で身につけた自分なりの速読術を実践しています。

これはあくまでも個人的な考えなのですが，巷に出回っている速読本を私はあまり信用していません。そんな本の中には，「一冊を 5 分で読み切る秘訣」「一秒に一ページのペースで読んでいく極意」といった魔法のような言葉が並んでいます。しかし，そんな神業（？）が身についたとしても，果たしてどれほどその本の内容を理解しているかというと，疑問を抱かざるを得ません。

そんな神業を身につけることよりも，私自身が長年実践している時間制限法を活用した読書術をおすすめします。これは,あらかじめ時間を設定して本を読む方法です。たとえば，読書時間を比較的しっかり確保できる週末を活用して，文庫本なら一時間

で読み切ると宣言して読み始めましょう。200 ページの本なら，1 ページを 15～20 秒の速さで読み進めればいいのです。脳に読み切る時刻を教えてやれば，見事に時間内に読み切ることができる自分に気付くはずです。そもそも，本の内容を 100%理解する必要はありません。70～80%理解できたらいいという気軽な気持ちで読み進めればいいのです。本のページにサーッと目を通す習慣をつければ，どこが重要でどこが重要でないかが即座にわかるようになります。

この読書法を実践していくうちに，読む速度を変幻自在に変えながら，重要な部分はじっくりと，そしてそれほど大事でない部分はサラッと読み進む能力が身についていることを実感できるはずです。とにかく理屈抜きに，斜め読みでいいからたくさん本を読む。これこそ，理解力を高めて効率良く勉強する上で身につけたい習慣です。（51 ペ）

○SWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析…スタンフォード研究所のアルバート・ハンフリーが発案。（59 ペ）詳しい方法は http://www.i-i-b.jp/blog/2957/swot/ などのやり方が参考になる。クロス SWOT 分析などの発想法が立体的で新鮮。（59 ペ）

○帰納法と演繹法を自在に使い分ける。（67 ペ）

○「メタ認知力」を高める

1. メタ認知的知識

   認知作用の状態を判断するために蓄えられた，課題や計画についての知識

2. メタ認知的技能

   メタ認知的知識に照らして認知作用を直接的に調整する，自己モニタリングに基づいて自己評価する技能

認知能力に優れている人は，当然，テストの成績の良い人が多いのですが，同じ知識を持っていても，メタ認知力の低い人はうっかりミスが多く，思いのほか成績がふるわないことも多いのです。（71 ペ）

○「ビジョン・トレーニング」で情報処理速度を速める

・大切なのは勉強時間の長さではなく，実質的な勉強の密度

・情報処理速度を上げるには脳の入り口である眼のトレーニングが大切
・人差し指を文字のすぐヨコを移動させながら校則で読む訓練で読書速度を上げる
・眼球を動かす筋肉を鍛えれば眼が取り込む情報量が増える
・目を「カメラのレンズ」にして瞬時に情報を脳に取り込むという感覚が大切（90 ぺ）

〇新聞の上手な読み方

1. 紙面全体を見渡して映像的に認識する
2. 重要な見出しを探す

右脳の視覚野を活用することがポイント（99 ぺ）

〇集中しやすい細切れ時間を逃さない
・5 分間のすき間時間で勉強しよう（駅のホームで）（病院の待ち時間）（行列の待ち時間）等々。
・中だるみしやすい連続一時間の勉強よりも，集中している 5 分間をまとめた 1 時間のほうが勉強の効果は高い。（117 ぺ）

〇モチベーションは短期的な目標ほど上がる
・短期的な日課を着実にこなすことに効果がある。
・厳しめの締切を設定して宣言し，これを守ることで成果を出す。
・壮大な目標は途中でくじけやすい。大きな目標の手前で小さな目標をいくつか設定し，それらを着実に達成していくほうががんばれる。（127 ぺ）

〇暗記物は睡眠前学習で記憶する
・朝に学習したグループは，学習した内容が安定する前に昼間の活動に入るため，記憶が定着しない。
・拠るに学習したグループは，その後，睡眠に入るため，就寝前に記憶した事柄がうまく整理されて，記憶が定着する。
・著者自身も長年の習慣から，昼間に学習するよりも，睡眠前に学習したほうが明らかに記憶が頭に残っていることを実感している。
・朝の脳は活性化しているので，直感やひらめきを呼び起こすには，朝のほうが有利

である。クリエイティブな発想系の作業は起床後 2～3 時間に行うことが肝要。
・「入力作業は就寝前に，出力作業は早朝に」

〇勉強ノートに思考を書き留める
・常に作業の優先順位を確認しながら勉強しているか。
・過去問を最重要視しながら勉強を進めているか
・勉強を阻害する作業をしていないか
・やらなくても良い無駄な作業をしていないか
　上記のことを確認しながら，自分だけの勉強ノートを使って，最高の勉強ができる環境作りに努めましょう。（175 ペ）

＊

　通勤電車の中や，駅の待合室，勤務時の空き時間など，上手く使える時間はまだまだたくさんあることを実感。これからも工夫をして「勉強の量と質とを両方とも上げる」取り組みを続けていく所存です。深みはないが良い本だ。

◎福地孝宏著『中学教師新任 3 年目までの仕事の教科書』（学陽書房・2015 年）（私物）
　この春から初めて担任になる隣席の M 先生に勧めるために買ってみた。アタリだった。平易で読みやすい。自分の仕事ぶりについて棚卸し的に見直すことができる本。板倉聖宣著『発想法かるた』，牧衷著『運動論いろは』等と同様に，ザーッと読み流して,「引っ掛かった」ところについて考えてみれば,新しい境地が開けるかも知れない。内容はたとえばこのような感じである。

＊

　「生徒が悩みを打ち明けてきたら…」
〇「黙ってうんうんと話を聴く」…悩んでいる生徒が本当に必要としているのは，無条件に話を聴いてくれる人です。内容がさっぱりわからなくてもかまいません。黙って「うんうん」と聴きます。
　聴くだけの仕事は大変ですが,話したいことを話し終えた生徒の顔を見てください。さっぱり晴れ晴れとしています。

〇「常識や一般論は絶対に言わないこと」…悩んでいる生徒に，常識や一般論を語っ

てはいけません。ありがたい人生の教訓，説教もいけません。そのような先生には，誰も近づかなくなります。

生徒は「しまった。話をする人を間違えた！」と反省します。

誰かに悩みを聴いて欲しいと願う生徒は,普通のことができないから悩んでいます。誰よりも普通であることを求めているのです。…

＊

たしかにこれは 3 年目までの「初心者向け」という印象。ある生徒の話を黙って「うんうん」と聴いていたら,「あの先生も私の考えに賛成してくれた」と回りの生徒に言いふらされて，人間関係がめちゃくちゃになってしまった教師を私は知っている。学校には魑魅魍魎が住み着いているのだ…と思っておいたほうが身のためであると私は思う。

◎土居聖和監修『超入門･はじめて犬と暮らす選び方＆育て方 BOOK』（世界文化社・2015 年）

「犬の飼い方の本」という私の（ちょっと図々しい）リクエストに応じて急遽，司書の小田先生に購入して頂いた本。

初心者の私にもとても分かりやすい。写真が豊富で読むところはかなり少ない。ビジュアルに理解できる。表紙に「この一冊で飼い方の基本がすべてわかる決定版」とあるが，ちょっと困ってしまうところもあった。具体的には，本に書いてあることよりも，犬が引き起こす問題に対処するだけで精一杯になってしまうところ。いちばん切実であるトイレトレーニングに関する記述がないことだった。これは意外な盲点だ。これ以外は楽しくて役に立つ内容だった。

◎関良基著『赤松小三郎ともう一つの明治維新』（作品社・2016 年）（私物）

従来の「歴史観」に対して根本的な変革を迫る出色の一冊。抜き書きをする。「どこを抜き書きしたくなるか」は私のこの本に対する読み方そのものなので，それだけで一種の「書評」になるはずだ。説明不十分になることは避けられないが，このメモの第一の目的は自分のための記録であるから,読者の皆様にはどうぞ,お許し頂きたい。

〇墓石の壁面に書いてあった墓誌を読んだ。…（中略）…赤松の死の真相をカモフラ

ージュするかのように，彼の業績をたたえているように思われた。赤松小三郎が目の前で「無念だ」と訴えかけているように感じられた。合掌した。赤松小三郎の名誉を回復しなければならないと思った。…（中略）…私は一時間近くも墓石と対話していたと思う。気づいたら，日はとっぷりと暮れ，あたりは真っ暗になっていた。「私はあなた様のような優れた才能を持たないけれど，あなた様の同郷人として恥ずかしくないよう，精一杯学問に励みます。今の私では何もできません。学成り，何がしかの人間になったら，あなた様の名誉を回復するために何かができるかも知れません。それまでどうか待ってください。今はお許しください」――そう墓石に語りかけてその場を辞したのであった。赤松小三郎を暗殺した黒幕は，日本人なら誰でも知っている，「維新三傑」のうちの二人であろうと思われる。殺した彼らは英雄だが，殺された小三郎のことはほとんど誰も知らない。（13 ペ・［はじめに］より）

〇アーネスト・サトウが期待していたのは，日本に平和的な手段で近代的な新政権ができることではなく，血なまぐさい内戦が引き起こされ，泥沼の内戦の果てに，英国の言いなりになる傀儡政権が樹立されることだったのだ。（54 ペ）

〇（慶応三年）九月三日，（上田への）帰国の準備の最中だった赤松小三郎は，京都の五条東洞院通を下がったところで刺客に襲撃されて殺害された。…（中略）…斬奸状には（この者はかねて西洋を旨とし，皇国の御趣意に背き，天下を動揺せしめたこと不届きの至り，捨ておくべからざる罪にて，天誅を加えた）と書きつけられていた。（60 ペ）

〇第一に，天朝に徳と権力を備えるには，天皇を補佐する大臣として，大君，公卿（くぎょう），諸侯，旗本の中から，道理が明らかであり，実務能力があり，さまざまな情勢に通じた人材を六人選びます。一人は大閣老（内閣総理大臣）で国政全般，一人は財政，一人は外交，一人は海軍と陸軍の軍事，一人は治安・法務，一人は徴税をそれぞれ司ります。大臣以外の官僚たちも，すべて門閥を論ぜずに人選し，天皇を補佐し，国内の行政全般を司り，命令を出す，これを朝廷と定めます。（82 ペ）（柳沢注：赤松小三郎の「建白書」，1867 年当時としては画期的に進んだ内閣組織論）

○また別に議政局を設置し，これを上局と下局に分け，下局は各国（県）の大小に応じて，国ごとの選挙によって数人ずつ，合計で 130 人の議員を選出し，その議員の三分の一は首都に常駐させ，年限を定めて交代で勤務させます。上局は公卿，諸侯，旗本の中から，選挙によって 30 人を選出し，首都に交代で勤務させます。（83 ペ）（同上，これも 1867 年当時としては画期的に進んだ国会組織論）

○行政府は，立法府の決定に対して意見を言うことはできるが，その最終決定を覆す権限を持たない。天朝の修正意見に対し，それを受け入れるか否かは議政局の判断にゆだねられる。議政局こそが国権の最高機関であるということを明確に述べたものである。現行憲法では，行政府の長である議会の解散権が付与されている。小三郎の構想では天皇にも大閣老にも議政局の解散権も認めておらず，議会の最終決定には従わねばならないとされる。すなわち，小三郎は，現行憲法以上に立法府の権限の強い制度を志向していたことになる。（86 ペ）

○各省の省内には，例えば外務省であれば「対米従属こそ日本の国益である」とか，国交省ならば「ダムは造らねばならない」とか，経済産業省であれば「原発を推進せねばならない」といった,「鉄のドグマ」が支配し，彼らはそれを盲信している。…（中略）…憲法上，主権は国民にあり，三権分立も定められている。しかし，実際の主権は霞ヶ関にあるかの如くであり，司法も立法も官僚たちの専横を抑制できていない。…（中略）…日本では，国民が官僚の意志決定に異を唱えることは，とてつもなく困難なのである。…（中略）…そのルーツは，明治維新がつくった有司専制システムにある。そのシステムは，一度暴走して 1945 年の破滅に至ったが，懲りずにまた復活し，いよいよ末期的段階に入っているのが現状である。（94 ペ）

○サトウが，西郷らが主張する「議事院」とは，イギリスの「パーラメント」ではなく，アメリカの「コングレス」であると書いたのは，イギリスでも実現されていない普通選挙を提案していたからである。（98 ペ）

○「船中八策」とは，文部省の維新史料編纂官であった土佐出身の岩崎鏡川が，1926 年に編纂された『坂本龍馬関係文書』（日本史籍協会）に収録したものである。しかし，

近年では…（中略）…その文書の存在そのものが否定されてきている。（100 ペ）

〇小三郎は，福沢が紹介した英米の政治制度を単純に模倣したのではない。英国式や米国式の参考にすべき部分を取り入れながら，日本の国柄に合わせて改変している。（103 ペ）

〇小三郎は，米国大統領のように一個人に強力な権限が集中することは，個人の考え違い，思い違いなどから重大な過ちを犯すリスクが高いと危険視していた。立法府である議政局の決定に内閣は従うべきだと考え，拒否権や解散権を退けたのである。小三郎はあくまで，特定のリーダーに政治的な意志決定を委ねるのではなく，議会の中で国民の代表が慎重に公開審議して練り上げられた「公議輿論」に従って国事を遂行するのが最良であると考えていた。（105 ペ）

〇地球のどこに持っていっても恥じるところのない憲法を。（109 ペ）

〇著者は（安倍氏の）この言葉に戦慄を覚える。人類普遍・万国共通の理念の追求は，「GHQ の押しつけ」どころか，安倍首相の大先輩である長州尊攘派などを除けば，道理をわきまえた日本人たちが，慶応年間から考え，提案し，自らの意志で主体的に選択しようとしていたことなのだ。…（中略）…しかるに自民党の改憲プランはといえば，国家が国民を縛り，律し，監督し，為政者に都合の良い「道徳」を押しつけようという発想の，立憲主義のイロハも分かっていないシロモノである。（110 ペ）

〇明治維新の「初動」時に植え付けられた誤謬の根は，敗戦によってもなお潰えず，今日の安倍政権に至るまで根を張って，日本を呪縛し続けている。（113 ペ）

〇異端の明治維新研究者・鵜飼政志氏は，明治維新の解釈をめぐって，「皇国史観・王政復古史観」と「戦後日本のマルクス主義歴史観」は基本的に同じものであると述べる。（116 ペ）

〇このような学問的態度を「プロクルステスの寝台」と呼んでいる。「プロクルステス

の寝台」とは，あらかじめ学説の枠組みが固定されて存在し，その枠組みに合致する事実を採用し，合致しない事実は切り捨てていくような学問的態度のことを指す。…（中略）…フランクは，実際には産業革命以前の世界経済の中心は東洋であったにもかかわらず，西洋が中心でなければならないという思い込みによって，事実関係が捻じ曲げられてきたことを実証した。（117 ペ）

〇日本の明治維新研究者は，長い間「プロクルステスの寝台」を実践してきた。その事例として，本章では主として吉田松陰を取り上げる。それは彼の虚像が日本の左右の政治運動を呪縛してきたが故である。（117 ペ）

〇戦前からマルクス学派の中では，明治維新を「ブルジョア革命」と見る「労農派」と，封建遺制が残存した状態の「絶対主義国家」への移行だったと見る「講座派」の対立があった。しかし明治維新を「幕藩体制を打倒した近代的社会改革」であり，「歴史の進歩」だったと見る限りにおいて，両者変わるところはなかった。マルクス史学の発展段階論的な歴史法則主義においては，「絶対王制」も歴史の一段階として，必要不可欠なステージであり，封建制に比べれば「進歩」と解釈されるのだ。

そう解釈するためには，「薩長＝進歩派」「幕府＝反動派」と規定せねばならず，そのためには「幕府」を必要以上に脚色して悪く描かねばならなかったし，かたや長州攘夷派のイデオローグ吉田松陰を「進歩的思想家」として記憶せねば，「物語」は成立しなかったのである。（118 ペ）

〇学会の大御所である宮地氏が快く出向いて講演して下さったのであるから，心より感謝している。しかし同時に，日本の戦後の明治維新研究が抱えてきた大きな問題点も痛感せざるを得ない内容であった。（120 ペ）

〇著者も大学教員のはしくれであるが，かりに学生に「小三郎の『御改正口上書』の主張内容を要約せよ」という課題を出し，学生がこの五点にまとめてきたとしたら，遺憾ながら赤点をつけざるを得ない。（121 ペ）

〇小三郎を死に追いやったのは，もちろん小三郎の暗殺を命じた薩摩の武力討幕派で

ある。学者たちは，彼らを「英雄」として評価する「国民の物語」を死守したいがために，彼らの行為の闇の部分に目をつむってきたのではなかったか。…（中略）…実際,「物語」の枠組みに従って,薩摩や長州のテロ行為をも正当化し続けてきたことが，昭和になって軍部や右翼によるテロリズムの横行を生んだのではなかったか。それが太平洋戦争の亡国につながったのではなかったか。戦後においてもなお，歪んだ「明治維新の物語」が正当化され続けてきたことが，民主憲法を「押しつけ」と信じ込み，立憲主義もないがしろにするという現在の政府与党の姿勢を許すことにつながっているのではないか。（125 ペ）

〇吉田松陰は…（中略）…密航に失敗し，萩に幽閉されてからというもの，まるで別人にでもなったかのようにエキセントリックなエスノセントリズムに感染し，勝算も合理性のかけらも何もない排外主義的な攘夷論を煽り立てるようになった。（125 ペ）

〇象山は松陰に対し，反省すべきは密航に失敗したことではなく，憤怒と怨恨の情に流された排外主義思想そのものであると戒めた。計画が挫折し，自分の人生がうまく行かないからといって排外主義に走る弟子の短慮を深く憂慮し，自制を促したのだ。象山は，侵略を受ければ自衛のために戦うという思想は持っていたが，自分勝手な理屈で近隣諸国を侵略するという，松陰の排外主義は許せなかった。（127 ペ）

〇「幕閣」は，吉田松陰を処刑した「悪」でなければならず，井伊直弼によって代表されなければならない。守旧派の「幕閣」の中に，松陰を救おうとしていた人物がいるという事実は，明治維新神話にとっては不都合なのであろう。松平忠固は，禁裏の勅許を得ずに米国と条約を結ぼうとしていた急先鋒であった。松陰ら尊攘志士たちが「違勅」と呼んで非難していた天下の悪行を実行する頭目だった。違勅条約調印の頭目が松陰を救おうとし，倒幕の狼煙をあげた革命家でなければならない松陰が，打倒されるべき反動政府の親玉を「思い慕う」と述べているという事実は,「明治維新の物語」の再生産にとって不都合なのである。（131 ペ）

〇忠固らは，イギリス艦隊が日本に襲来する前に，それに比べて与しやすい交渉相手である米国とのあいだで，少しでも日本に有利な内容の最恵国条約を結んでしまい，

ハリスを盾に英国との交渉も有利に進めようとしたのだ。（132 ペ）

〇かくして日本の貿易条件は，アヘン戦争の敗戦条約である南京条約と同じ水準になってしまった。下関戦争は，日本における「アヘン戦争」としての意味を持った戦争であった。（134 ペ）

〇かりに伊藤らが「横浜焼き討ち」というテロ計画を実行していれば，阿鼻叫喚の地獄絵図が展開されただろう。どれだけの死者が発生していたかも分からなかった。これを「朝飯前」というのが，日本の初代内閣総理大臣を務めた人物の発言なのである。伊藤博文を暗殺した安重根を「テロリスト」と呼ぶ自民党の政治家たちは，その伊藤博文が何をやってきたのか，まずは知るべきであろう。（136 ペ）

〇佐久間象山の暗殺は肥後の河上彦斎単独の単独犯行であるかのように語られている。これもプロクルステスの寝台の実践例である。象山暗殺は長州系の尊攘志士の組織的犯行である。河上単独の犯行ではない。吉田松陰の弟子たちが，松陰の恩師である佐久間象山を殺害したのだ。この事実も，物語にとって不都合であるから語られてこなかった。（137 ペ）

〇まさか松陰は，敬愛する恩師が自分の弟子たちの手にかかって殺されることになるとは夢にも思わなかったであろう。（140 ペ）

〇本書の執筆時点で首相を務めている安倍晋三氏が，吉田松陰を尊敬していることは有名である。（145 ペ）

〇政治的イデオロギーは百八十度対極にあるように見える自民党の指導者と，共産党のかつての指導者が同じ人物を尊敬しているのだ。…（中略）…現在の「自共対決」という構図は，「長州右派」と「長州左派」の闘いなのかも知れない。左右が闘いを演出しながら，全体としては「日本型官僚制」という明治以来の長州システムを支えているのかも知れない。長州の影響力はすごいのだ。（146 ペ）

○150 ペ　最初の一文，文末に○なし。誤植か。

○150 ペ　赤松小三郎の構想の要点，（1）天幕合体諸般一和の下，上下議政局設置。（2）議政局は立法，大閣老（首相）以下の内閣閣僚および各省高官の任命権を持つ。（3）天皇と内閣からなる朝廷（行政府）は議政局の議決に従って行政を執り行う。天皇も議政局の決定に従わねばならず，拒否権はない。

これに対し 151 ペ　明治維新で実際に発生した現象（1）祭政一致の国家神道の原理主義体制が成立。薩長土肥の維新志士たちがその能力とは無関係に藩閥人事で各省のトップに据えられ，非民主的な手法で官僚機構が誕生。維新志士たちが独断専横で法制度を整備。（2）維新による官僚機構の誕生から 17 年を経て 1885 年に内閣制度が誕生し，さらにその 5 年後の 1890 年にようやく議会が招集（柳沢注 :「召集」を使わないのには何か著者の信念のような理由があるのか，それとも誤植か）される。（3）欽定された憲法で国権の最高機関は天皇であり，内閣は天皇を「輔弼」するものでしかなく，議会は天皇の立法を「協賛」するものでしかなかった。

○議会のないまま藩閥官僚たちが独走した 23 年のあいだに，官僚たちの「我は国家なり」の傲慢不遜な意識が形成され，その意識が後輩たちに連綿と引き継がれて現在に至っている。…（中略）…結局，150 年経っても日本はそこから抜け出せない。…（中略）…小三郎の構想では，陸海軍を統括する軍務大臣も，議政局が選出することになり，軍は議政局によって統制されるはずであった。この構想に従って近代国家が始まっていたら，軍部の暴走もなかったであろうし，官僚の専横もここまでひどくはなっていなかったであろう。…（中略）…元勲の山縣らが生きていたころは，かろうじて人治主義的に軍を統制できていた。しかし法治主義的に軍をコントロールできないシステムであったため，昭和になって，法が軍の暴走を後押しすることになってしまったのである。（153 ペ）

○西周の身の処し方…（中略）…鵺（ぬえ）のように権力に迎合する，そういう人間であったというより他ない。（158 ペ）

○森鷗外と日露戦争の脚気惨害　板倉聖宣著『模倣の時代』にある脚気問題の紹介。

（160 ペ）問題を起こした当事者であるところの森鷗外は，真相究明委員会の委員長になって問題をもみ消した。これは「利益相反」であり，今日も引き続く構造である。福島第一原発事故後に諸外国から直ちに問題視されたのは，原子力の安全性をチェックするべき原子力安全保安院が，原子力を推進する主体である経済産業省の中にあったという事実であった。推進機関の下部組織に規制機関が存在するのでは，安全審査がなおざりにされるのは当然であった。

明治維新以来の日本の政治システムにおいては，巨大な人災が発生しても，真相の究明はなされないまま，誰も責任を取らず，同じことが繰り返されていく。明治に出現したのは，責任者は切腹するという，厳格な結果責任の慣行が存在した江戸時代とはまったく異なる無責任システムであった。このシステムは，やがて無責任体制をさらに肥大化させて，太平洋戦争にまで突き進み，滅亡に至った。

しかるに，戦後にあっても GHQ が日本の官僚機構を温存してしまったがために，その構造が再生され，霞ヶ関の各省に引き継がれた。その巨大無責任体制によって，福島第一原発事故に行き着いたと言えるだろう。（162 ペ）

〇五日市憲法草案は 2013 年 10 月 20 日に美智子皇后がお誕生日談話で言及されたことによって大きく注目を集めた。改憲を掲げる第二次安倍晋三政権が発足して一年も経たない時期に，皇后は，あえて五日市憲法について言及され，次のような賛辞を送った。…（中略）…「…近代日本の黎明期に生きた人々の，政治参加への強い意欲や，自国の未来にかけた熱い願に触れ，深い感銘を覚えたことでした」（164 ペ）

〇すなわち明仁天皇は，「天皇を主権者」と規定する「大日本帝国憲法」は，日本の長い歴史と伝統の中で異質なものであり，その異質な体制の下で 310 万人もの命が失われる戦争の惨禍がもたらされたこと，「天皇を象徴」とする日本国憲法の方が，日本の歴史の中の天皇制の伝統に合致するものと認識されている。

著者も，日本において古来，天皇は象徴的な存在であり，象徴であったが故に，滅びることなく存続し得たのだと思う。（169 ペ）

〇日本では，天皇が政治の表に立たず，摂関家や武家に政治を委任していた時代において，平和で安定していた。明治維新とは，伝統的に象徴的存在であった天皇を「主

権者」に仕立て上げるクーデターであった。（170 ペ）

〇安倍首相の主観の中では,「戦後レジーム」から脱却して「日本を取り戻」せば，日本は主体性を回復するはずである。しかし現実には…（中略）…米国への従属構造を深化させているだけであり，主権を放棄せんばかりの永続敗戦レジームの強化であった。改憲も米国が許可する範囲でのものでしかない。「日本を取り戻す」として愛国心を煽りつつ，実際には主権放棄政策を進めるという芸当は，神技的といえよう。（172 ペ）

〇外では覇権国に従属しつつ，内では専制的に振る舞うというレジームは，1945 年の太平洋戦争の敗戦によって生じたものではなく，1864 年の下関戦争の敗戦によって発生したのである。それは「長州レジーム」と呼ぶべき，明治維新以来の特質なのだ。（173 ペ）

〇野党の共産党の指導者も，市川正一，野坂参三，志賀義雄，宮本顕治など歴代，長州出身者が多かった。第三章でも述べた通り，自民党の安倍晋三首相も，戦後の共産党を長く率いてきた宮本顕治議長も，尊敬する人物はともに吉田松陰である。日本の右派も左派も「幕末長州」がつくりあげた政治運動の伝統を，それぞれの文脈において継承してきたのだ。まさに明治維新神話が,「国民共通の物語」であったことの証左といえる。（174 ペ）

〇岸（信介）は，獄中で CIA と取り引きを実行して釈放され，あろうことか首相の座にまで登りつめた。ナチスの軍需大臣が戦後釈放されて首相になることなどあり得ただろうか？　このようなことを許してしまったのが，戦後の米国の対日政策の最大の瑕疵であった。…（中略）…排外主義に走る人間たちはコンプレックスのかたまりであることから，うまく自尊心をくすぐれば，傀儡として御しやすいと踏んでいるのだろう。（175 ペ）

〇現在，岸信介首相の岸派の流れである清和会は，自民党を乗っ取り，かつての自民党主流派と比べて，より米国への従属度を深化させながら，立憲主義をないがしろに

し，日本を支配している。これが長州レジームだ。…（中略）…GHQ ですら，それを崩せなかったという事実について，安倍首相は誇るべきであろう。（175 ペ）

〇楠公祭では，吉田松陰，村田清風，来原良蔵から，無名の庶民に至るまで 16 名の長州志士たちを「招魂」した。天皇のために死にさえすれば，身分の分け隔てなく，みなが平等に招魂され，神となって祀られるという，後年の靖国神社に至る，それまでの日本には存在しなかった新興宗教の誕生であった。（176 ペ）

〇日本の右翼にも左翼にも見られる，政治的な目的を遂げるためには手段を選ばず，人の命を犠牲にすることを何とも思わない，その思想の起源の一つは，吉田松陰と松下村塾に求められる。（179 ペ）

〇戦後民主主義史観は，対米従属構造と深く結びついていることは否めない。日本人のアイデンティティーを取り戻そうとする保守層には受け入れ難い。…（中略）…長州レジームは，その実質，誰よりも米国に屈従しながら，屈服の事実を粉飾するためか，対アジア関係では尊大にふるまって，国内向けには愛国心を煽り続けた。現在，まさにその「成功」が，日本を滅亡の淵へと追い込みつつある。「コミンテルン史観」や「GHQ 史観」が去った後の日本の次なる課題は，「長州史観」からの脱却であろう。（181 ペ）

〇亀井静香「明治維新以来の日本政治の問題点が，靖国神社の歴史に凝縮されている。…（中略）…結局，靖国神社は明治新政府内の権力闘争をそのまま反映した施設になっている。つまり，官軍である長州藩中心の慰霊施設，いわば長州神社というべきものだ。…（中略）…明治維新から昭和 20 年 8 月 15 日に至る日本の近代史は，ある意味，政府内の権力闘争が明治維新当初の理念を捻じ曲げ，天皇陛下のお立場そのものさえ危機に追い詰めてしまった歴史だ。長州閥は天皇陛下を利用し，時に「玉座を胸壁とし詔勅を弾丸と」しつつ，自らの権力を拡大していき，その帰結として先の敗戦があるとも言えるのだ」亀井発言によって目からウロコが落ちた人々は多かったようである。（183 ペ）

〇近代日本の原点は明治維新にあるのではない。江戸時代の末期に提起された立憲主義にある。赤松小三郎の憲法構想に近代日本の原点を置くのであれば，それは現行憲法とまったく連続性を持つことになる。「現行憲法は GHQ に押しつけられた」という言説は成立しなくなる。…（中略）…いまや「明治維新」が葬ってきた数多くの無念の思いを呼び起こすときである。パンドラの箱が完全に開け放たれ，記憶の操作が不可能になるとき，150 年の長きにわたって日本を支配してきた，官尊民卑と覇権国への従属を旨とする長州レジームに終わりの鐘が鳴るだろう。150 年前に葬られた赤松小三郎ら公議政体論者たちの夢を実現せねばならない。官僚よりも議会が優越し，衆議で国事を決定していく，輿論政治の夢を。（終）（186 ペ）

抜き書き以上。抜き書きしながら，「こんなにすごいことが書いてあったのか！」と再度，深く深く感心した。関氏の文章は語彙が豊富で使い方に味わいがある。歴史に名を残す本であると思う。初版本の価値が上がりそうだ。

本書には［はじめに］と「あとがき」があり，著者の思いはこれらに凝縮されている。急ぐ場合には最初にこれらを読むことも一つの方法であると思う。（これらを読めば，どうしても本文を読みたくなってしまうだろうが…）

この抜き書きをもとにアマゾンのレビューに投稿してみたい。ゴールデン・ウイークが一つのチャンスだと思う。…と宣言し，自分にプレッシャーを与えてみる。

◎森炎（ほのお）著『裁判所ってどんなところ？』（ちくまプリマー新書・2016 年）

読みやすい。関心のあるところのみ拾って速読した。興味深かったところを次に写しておく。

〇法学・経済学・社会学の分野で幅広い業績を残したマックス・ウェーバーは，国家権力を「暴力の独占体」と定義しました。いくら，「福祉国家」とか「法治国家」などと言ってみたところで，国家権力（立法・行政・司法）は，つきつめれば，暴力，実力なのです。法廷は，その原始的な姿があらわになる場でもあります。そのため，常に，国民による監視が必要になります。（38 ペ）

○…刑事は,「罪と罰」に関係し，それは刑事法典に定められていますから，おのずから限定的です。刑事法典に罪として定められていないのに，国民が罰せられるということはありません。これを「罪刑法定主義」と言っています。（74 ペ）

○フランスの法服貴族出身のモンテスキューは，国家権力を立法権，執行権（現在の行政権),司法権の三権に分け,それらをバランスさせ,相互にチェックさせることで,全体として権力の濫用を防止するという考え方を 18 世紀中葉に打ち出しました。…（中略）…この考え方が画期的なのは,「権力を弱める」という発想にあります。…（中略）…そこには，権力を抑制し得るのは他の権力だけだとう冷徹な判断があるのと同時に，国家の権威にまどわされることなく，統治の仕組みと個々の国民との関係を見つめる視線があります。…（中略）…モンテスキューの立論は，司法権の独立と結びついています。その点でも画期的であり，近代的三権分立論と言われます。（103 ペ）

○…ところが，第二次世界大戦後，日本国憲法をはじめとして，多くの国が違憲立法審査権を導入しました。そうなると，もう，先ほどのような言い方（「裁判所は法を適用するだけだから」）は通用しません。違憲立法審査権の発動によって，裁判所は，国民代表の意志（国会の法律）を否定することになるわけですから。極言すれば，国会で多数の議員が審議して時間をかけて成立にこぎつけた法律を，たった一人の裁判官が自分だけの考えで無効化することができるのです。ここにおいて，民主的基礎を持たない国家機関（＝裁判所）の権限の許容性をどのように考えればよいのかという問題が再浮上しました。現代憲法における深刻な課題の一つとなっています。（150 ペ）

○…こうして，裁判所は民主的基礎を持たないけれども，それでも違憲立法審査権を行使することが許されるという理解が可能になりました。そればかりか,「民主的専制」「多数者支配」の考え方のもとでは，むしろ，社会的弱者保護のために違憲立法審査権を行使しなければならないことにもなります。許されるかどうかという議論を超えて，一足飛びに，裁判所が「人権の砦」として登場する積極的な必然性まで肯定されるに至ります。前に触れたルソー流の定式との関係も含めて，一挙に問題が解決されることになったわけです。「民主的専制」「多数者支配」の考え方は，裁判所のあり方にコペルニクス的転回をもたらしたと言ってよいでしょう。「日本国憲法は多数者によ

っても奪えない人権を保障している」とよく言われますが，これも，掘り下げれば「多数者支配」「民主的専制」を指していることになります。（154 ペ）

〇日本国憲法九条は，戦争放棄，戦力不保持，交戦権否認を定めています。けれども，現実には，日本には自衛隊が存在し，アメリカ軍基地には，日米安保条約に基づいてアメリカ軍が駐留しています。それは，戦力を持つことにはならないのでしょうか。また，戦争放棄や交戦権否認の趣旨に反するのではないでしょうか。当然，それらの事柄が憲法上の大問題となります。

しかし，日本の裁判所は，この点に関する判断は極力避け，憲法判断をしないという姿勢をとっています。自衛隊については，憲法判断はほとんどしていません。日米安保条約に基づくアメリカ軍の駐留については，明白には違憲ではないとし，それ以上の憲法判断はしないと宣言しています。

これでは，何か，重大な問題から逃げまくっているような負の印象を受けてもやむを得ないかもしれません。けれども，憲法論的には必ずしもそうとばかりは言えません。

これが何を意味するかと言えば，自衛隊の存在や日米安保体制のような一国の存亡にも関わる事項については，民意にゆだねるという考え方にほかなりません。

裁判所の場合，「司法権の独立」の反面として，直接的に民意が反映されることはありません。そうだとすれば，そのような国家機関が一刀両断的に判断してよいことではなく，世論によって政治的過程で決めるのが適切だという見方です。そのために，裁判所は権限の行使を自制するということです。

司法過程で決めるとすれば，一人～三人（下級裁判所），多くとも十五人（最高裁判所）の判断で国の命運が左右されかねないことになります。それは，国家のあるべき姿ではなく，国民多数の議論によって決めなければならないと裁判所は考えているわけです。（177 ペ）

（柳沢注：これは専門家の「逃げ」「ほおかむり」「責任委譲」の名を借りた「責任放棄」ではないか。「衆愚政治」そのものではないだろうか。）

〇日本の刑事裁判官は，治安維持の担当者という色彩が著しく強くなっています。日本では，裁判員制度が始まるまでの 30 年間，有罪率はずっと 99.9 パーセント前後で推移していました。1997 年には，99.957 パーセントを記録しました。…（中略）…

2013年の国際会議では,モーリシャス共和国の委員から「日本の刑事司法は中世並み」と批判されました（国連拷問禁止委員会・日本政府報告書審査)。(186ペ)

〇…けれども，その結果，見逃せない問題を生じています。それは，憲法九条に関して，日本は，他国に類を見ない平和主義をとりながら，かえって，軍事（有事）に対してノー・コントロールの状態になってしまっていることです。国として奇妙なパラドックスに陥っています。

自衛隊，日米安保条約，アメリカ軍の駐留問題などに対して，裁判所が憲法問題に踏み込むのをことごとく避けてきたことは，すでに述べました。これによって，国際紛争発生時に自衛隊が海外にどの程度の範囲で，どこまで出動し，どう展開し，どのような戦力を投入するか，米軍といかなる連携をとるかなど，有事の行動をしばる一切の規範的統制がなくなっています。たとえ，その行動が自衛隊法や有事立法に基づいていたとしても，それらの法令の憲法適合性が何も保障されていないならば，規範的統制とは言えません。

ドイツなどでは，憲法で軍事力の行使に明確な枠をはめ，規範的なコントロールを徹底していますが，そのような行き方とは対照的です。(190ペ)

（柳沢注：こんなところにも小室直樹氏が指摘した，日本人の「規範嫌い」または「規範を守るのが苦手」という特徴を見出すことができる）

中高生向けの筆致で書かれているが，さらりとした文章で重い内容に言及しているところに特徴がある本だと思った。侮れない…。

◎齋藤孝著『新聞力――できる人はこう読んでいる――』（ちくまプリマー新書・2016年）

ズバリ一言で言う。「齋藤孝の本で難しいのは著者名だけだ」。これは半分褒め言葉でもある。齋藤孝の本はみんな「お子さまランチ」だ。食べたい人は必要だから食べるんだろう。「新聞を読め」と言っているだけ。新聞を読むことの弊害もあるに決まっているのに「新聞を読まないリスクはたくさんありますが，読むリスクはありません」（175ペ「あとがき」）と断言しているところにこの本の限界がハッキリ見えている。私は新聞を読むことは，自動車を運転するのと同じようなメリットとリスクがあると思っている。新聞を読むことのリスクをハッキリ指摘していたのは，名コラムニスト

の山本夏彦氏だ。「新聞読むと（読み方を間違えると思想的なことを真に受けて）バカになるから，特に子供に新聞を読ませてはいけない」という趣旨だった。私は山本氏の方がまともだと思う。

◎国谷裕子著『キャスターという仕事』（岩波新書・2017 年）

類いまれな至高の域に達した本。大変な本である。2017 年現在，このような良い文章の書き手は他にいない。終始，明晰この上ない名文である。最初の一文から読者の心をとらえて放さない。実用日本語の最高峰。いくら褒めても褒め足りない。緊張感に溢れて，いかにも怜悧であり，引き締まっている。この本は新聞広告を見て，即座に篠ノ井高校図書館にリクエストして購入してもらった。大事なところに付箋をつけたが，付箋だらけになった。自分用に一冊買って，付箋のある場所を移設してから返却しようと思っている。4 月 18 日（火）現在，納品待ち。

この読書メモを手にした人にはどんなことをしてでも必ず読んで欲しいと思った珠玉の一冊。絶対に後悔はさせません。ぜひ読んでみてください。次にランダムに選んだ一部を紹介する。とにかく，全編がこの調子なのだ。

＊

…経済学者の内田義彦さんに「聞と聴」というエッセイがある（『生きること　学ぶこと』藤原書店に収録）。英語に置き換えると，「ヒア」と「リッスン」となる。その内田さんのエッセイのなかに，「肝要なのは聞こえてくるように，聴くこと」とある。ヒアできるようにリッスンすること。また「聴に徹しながら聞こえてくるのを待つ」ともある。リッスンしながらヒアできるのを待つ，ということになる。つまり内田さんは，相手の話の細部にまで耳を傾け，注意深く丁寧に聴く，リッスンする力は大事だが，その人全体が発するメッセージを丁寧に聞く力，ヒアする力を見失ってはならないと言っているのだ。

「耳をそばだてて，あるいはチェック・ポイントをおいて聴かなければ人のいうことは聞こえてこない。がしかし，下手に聴にこだわると，聴いても聞こえない，いや，聴けば聴くほど聞くことから遠ざかる，こちらが仕掛けたチェック・ポイントに関するかぎりのことは理解されるけれども存在としての対象は遠のいてしまう」「聴に徹しながら聞こえてくるのを待つ」

大切なのは聞こえてくるように，聴くこと。インタビューの「聞く力」には，観察

力と想像力も求められているのだ。

内田さんのエッセイに，私はとても納得することが出来た。それは，私に一つの失敗の経験があったからだ。衛星放送のキャスター時代のこと，来日していた西ドイツのシュミット元首相にインタビューする機会があった。始まる前に，今日は主にヨーロッパ統合についてお聞きしたいと説明をしたところ，シュミット氏は「あなたの言っていることが一言もわからない」と言われた。もう一度説明しても同じことを言われる。部屋の空気がピーンと張ってきた。雰囲気を変えようと，「コーヒー，紅茶，オレンジジュース，お水がありますが，いかがですか？」とお聞きしたら，「コク」と言われる。今度は私が何を言われたのか，とっさにわからなくなり戸惑った。しばらくして今度はゆっくりと「COKE。コーラ」と言われた。70 歳をこえたドイツの老練な政治家が「コーラ」を飲みたいとおっしゃるとは，迂闊にも私は想像しておらず，理解できなかったのだ。

そして，シュミット氏はまたゆっくりと「私は右の耳が不自由なのです」とおっしゃった。私は氏の右側に座ってインタビューすることになっていたので，氏には聞き取りにくく，何度も「あなたの言っていることがわからない」と繰り返していたのだった。私は夢中で話しかけていたので，シュミット氏の聞こえないという，ボディランゲージでおそらく発せられていたメッセージを捉えられなかったのだ。まさにリッスンすることばかりに夢中になっていた私は，ヒアという「聞く力」を失っていた。インタビューには，ただ質問し，その答えを聞くというだけではない，観察力と想像力も要求されていることを身にしみて知った経験となった。

このことがあってから私は次第に，質問を重視していたインタビュアーから，リッスンしながらヒアするインタビュアーに変わっていったのかもしれない。私の質問方法を「切り込み型」などと言う人もいたが，たしかに，生放送の限られた時間であったせいか，質問をたたみかけてしまうことが多い。しかし，良い言葉を引き出すきっかけを逃さないように真剣に話を聞く。そのとき，細部に耳を傾けながら，その人全体から伝わるものを聞く，感じ取ることが大事だと次第にわかってきたのだ。「聞こえてくるように聴く」，この内田さんの言葉をたいせつにしてきた。（130 ぺ）

＊

もう一つ，柳田邦男氏がクローズアップ現代の視聴者に向けた「危機的な日本の中で生きる若者たちに八か条」を引用紹介。

1　自分で考える習慣をつける。立ち止まって考える時間を持つ。感情に流されずに論理的に考える力をつける。
2　政治問題，社会問題に関する情報（報道）の根底にある問題を読み解く力をつける。
3　他者の心情や考えを理解するように努める。
4　多様な考えがあることを知る。
5　適切な表現を身につける。自分の考えを他者に正確に理解してもらう努力。
6　小さなことでも自分から行動を起こし，いろいろな人と会うことが自分の内面を耕し，人生を豊かにする最善の道であることを心得，実践する。特にボランティア活動など,他者のためになることを実践する。社会の隠された底辺の現実が見えてくる。
7　現場，現物，現人間（経験者，関係者）こそ自分の思考力を活性化する最高の教科書であることを胸に刻み，自分の足でそれらにアクセスすることを心掛ける。
8　失敗や壁にぶつかって失望しても絶望することもなく，自分の考えを大切にして地道に行動を続ける。（234 ペ）

＊

現代の新書としての最高傑作の一つであることを信じて疑わない。スピード感のある論理的な文章の見事なお手本である。素晴らしい。とにかく素晴らしい本である。

◎立川志の輔著『落語家』（実業之日本社・1997 年）

読みやすい。面白い。速読できる。苦労して書かれたことが分かる本。文体が途中で変わる。特に面白かった部分を引用紹介。

○…「仕事」とはもちろん,「それ」で飯を食ってるということです。たとえば今，どんなに命よりも大切な趣味があるとしても，それで飯が食えなければ「仕事」とは言えない。逆に，それで飯が食えるということは，それが仕事であり，社会に参加する手段だということです。その手段を選ばなければいけない今の時代は，私のおじいさんおばあさんの時代より，私の父親や母親の時代より，私の時代より，はっきり言って，むつかしいです，大変です，選びづらいです。だって，選択肢が多すぎる。情報が多すぎる。なんにでもなれそうな気がするかと思えば，なんにもなれないような気がしたりもするでしょう。…（中略）…一番大切なのは「好き」ということ。（4 ペ・

「まえがき」より）

○「状況判断のできない奴を馬鹿という」…（中略）…師匠の気持ちを察することができなければ，高座からその日のお客の気分がわかるわけないのだ。（75 ペ）

○うちの師匠のすごいところは，弟子一人ひとりの個性を見極め，一人ひとりに違う方法で教えていることだ。これは自分が弟子を持ってみて初めて気づいた。あれ，おれには昨日ああは言ってなかった，と思うことでも，そいつにはそう言ったほうが効く，という配慮なのだろう。（76 ペ）

○談志の門を叩いてからは，何がなんでも自分の頭で考えて自分で結論出さなきゃいけない問題に毎日ぶつかって悩む日々だった。サラリーマンのときは退屈に悩んだが，今度は悩みすぎの毎日になった。（80 ペ）

○アマチュアとプロの境目は，それで飯が食えるか，お客が呼べるか，ということにつきる。（85 ペ）

○（あなたが考えてお母さんに話したストーリーの）最後にちゃんと落ちがついていて，笑いがあって，その笑いがお母さんとあなた（当事者）にしかわからないものではなくて，たくさんの人にわかるものなら落語です。あなたは落語をひとつ作ったことになるのです。100 人相手に笑いがとれれば立派な落語と言えるでしょう。もっと言えば，その中に社会や人間への深い観察があり，あなたがどうしても言いたいメッセージが含まれ，聞いた後にいい感じが残るものであるなら，それは名作です。すぐに私のところへ送るように。（90 ペ）

○（協会から）脱退した数日後，師匠は私に宣言した。「おれはこれからおまえを“寄席を知らない落語家，実験第一号”にする。そんなおまえがいったいどんなものになるか，おれは見てみたい」これで私の運命は決まった。今まで連綿として続いてきた落語家像を変えてしまってもいいのだ。パイオニアになるのだ。…（93 ペ）

○利口な人間とは，いい大学へ入った人でもいい会社へ入った人でもなく，限られた時間の中で一分一秒を自分の楽しみに変えられる能力を持った人だと，私は思うのです。（106 ペ）

○（交通違反した）私（志の輔氏）のところへは警視庁からしっかりと免許停止の通知が届きました。師匠に報告すると，「なんかの間違いだろ」と師匠はどこかへ電話をかけました。「こないだのあれ，ちゃんと処理したか？　うんうん，そうか，おい，志の輔，罰金払っててくれたってさ」。師匠は車を運転しないので，点数が減ることがとても重要なことだというのがわかりません。「違うんです，師匠。罰金ではなく点数が……」「おい，点数だ，点数。なんだかわかんねえが点数が大事らしい……なに，できねえ！？コンピュータに入っちゃった？バカヤロー」ここまではわかりますね。でもつぎに放った師匠の言葉がすごかった。「てめえ，違反ひとつもみ消せねえで，国が守れるか！！」かわいい弟子のためには，理不尽な理屈で偉い人を罵倒してくれるのが師匠です。（117 ペ）

後半は明治大学落研時代からテレビタレントとして活躍するようになるまでの話，落語の内容解説の話。面白いがハッとするような話は少なかった。「息切れ」気味か。前半はたいへん興味深かった。談志サンがらみの毒の強い話が私の好みだ。

◎二宮敦人（あつと）著『最後の秘境・東京藝大――天才たちのカオスな日常――』（新潮社・2016 年）

奇想天外なようでいて，逆に人間の本質に肉薄している本と拝察した。一部は上質なジョーク集として編集し直して本にしたいほどである。気になった部分を引用する。

○…彫刻科では木や金属，粘土の他に樹脂を扱う授業がある。樹脂加工の際には有毒ガスが発生するので，学生はみなガスマスクを購入するそうだ。「こういうの，何処で買うの？やっぱりそういう専門店があるの？」妻は首を傾げた。「ううん。生協」藝大の生協にはガスマスクが売っているのだ！…（10 ペ）「はじめに」

○…「では時間厳守，ということですか」

「はい，もちろんです。邦楽科では，学生はレッスンの三十分前に来るのが基本です。その間にお部屋の準備をするんです。座布団を並べたり，楽器を用意したり，時間が

余ったら譜面を読んだりしますね。もちろん，事前に予習はしてくるんですけれど。万全にしておいて，時間になったら先生がやってきて，授業が始まります」…（36 ペ）

〇…「怖かったよ。試験中に，いきなり前の席のヤツが『ギャアーッ』って叫んでさ，鉛筆もテスト用紙も放り投げて，外に飛び出していったんだ」「それは怖いね」「いや，違うんだよ。本当に怖かったのはそこじゃない。そんなことが起きたのに，教室中の誰もが動じずにテスト用紙に向かってるんだ。響くのは，カリカリという鉛筆の音だけ……」飛び出した方はそれっきり，戻ってこなかったという。…（46 ペ）

〇…「藝大って国立じゃないですか。学費が安いんです。私立に入っても二年生までに藝大に移ることができたら，金銭的にはお得なんですよ。けっこうそういう人，います」…（49 ペ）

〇全音符の「書き順」について（53 ペ）

〇平成二十七年度絵画科油画専攻の問題。「折り紙を好きな形に折って，それをモチーフにして描きなさい」…採点基準はつまるところ「教授の好み」になってしまう。それでも好みが偏らないように，審査する教授は複数存在し，それぞれがいいと思った作品に票を投じる。…それぞれが日本を代表するアーティストでもある藝大の教授陣，その半数の心を動かせるか否か。それが，藝大の入試なのである。（61 ペ）

〇…「私の知り合いに，小さい頃から両親にヴァイオリンをやらされてた子がいるの。藝大器楽科ヴァイオリン専攻にも合格して，四年間ちゃんとヴァイオリンをやり続けた。間違いなく才能はあったと思う。それも抜群にね」「その人はどうなったの？」「卒業してすっぱりヴァイオリンをやめたわ。《これで義理は果たした》って言ってね」…（73 ペ）

〇…「参考までに，本庄さんが作成されたレポートや資料を，何か見せていただけませんか？」「いいですよ！」後日送られてきた資料は二つ。「幻想交響曲におけるベートーヴェンの影響」と「諏訪大社御柱祭で歌われる『木遣り唄』に関する研究計画書」

だ。ベートーヴェンから諏訪大社まで。音楽に関することなら，何でもあり！…（76ペ）

○…「漆芸専攻の人，一発でわかっちゃいますね」「そうですね……工芸科って年に一回，バレーボール大会をやるんですよ。そこでも，漆芸専攻がトスしたボールで，他の専攻の人がかぶれちゃったりしますから。教室でも，あんまり近くに座んないでって言われたりとか。迫害されてます」…（94ペ）

○（漆について）「やっぱり，宇宙の果てから生まれてきた物体ですよね」…（96ペ）

○…（窯番について）「火をつけて後はほったらかし，っていうわけにはいかないんですね。じゃあ，徹夜ですか」「そうなりますね。みんな徹夜慣れしてます。一時間目の授業に，眠そうな目で出ている人がいたら，陶芸の人かも……。でも，窯番が終わった後はとても清々しいですよ。何だか凄く達成感があるんです」…（108ペ）

○…「やっぱり恋愛とか，そういった精神状態が作品にも影響するんですね」「しますねー。作れる時，作れない時がありますから。作りたくない時には，気晴らしに出かけてみることも大事だったり。そうしているとふと，綺麗なものを作りたいって瞬間が来て……そうしたら，一気に作るんです。もう，寝ないでずっと作ってたりします。ある意味，自分でも自分をコントロールできていない面がありますね」…（110ペ）

○…「地味な時間がほとんどでも，手は抜けません。『指揮台に立つと丸裸にされる』とよく言われるんです。指揮者が勉強不足だったらオーケストラにはすぐにばれてしまいますし，そうなったら次の仕事は貰えなくなりますからね」…（117ペ）

○…「あ，ピアノのかたもラインをやるんですか？」「やりますよー。携帯のゲームも流行ってますよ。みんな連打が速いので，連打系のゲームはうまいです！」（121ペ）

○…「死ぬ間際まで追い詰められました。そんな時，ヴァイオリンに集中することで乗り越えられたし……ヴァイオリンに集中していたら高校にも合格して，そこから藝

大にも進んで……道が開けていったんです。だからヴァイオリンは恩人ですね。命の恩人」…（125 ペ）

○…「指揮者の棒の技術が関わってきますね。拍子をわかりやすく伝えられるとか，やりたいことがちゃんとわかるだとか，そういうことです。棒と言っても腕だけの動きじゃなくて，体全体です。全身の使い方が重要ですし，途中で息切れしないスタミナも必要です。あと，大事なのは呼吸ですね」（フルトヴェングラーはスキーの名手だったとか…）…（128 ペ）

○…「そうやって，うまく噛みあって，響きあった時，…いや，そんな言葉ではとってもたりないんですけど…とにかく本番で心が一つになって演奏できた時，物凄く幸せなんです。これをやるために生きているんだって，思います」…（129 ペ）

○（煮色着色について）…「大根おろしです。なぜ大根おろしをかけるかは，具体的には先生方もわかっていないそうですけど。そうすると，綺麗にできるんですよね。大根の中の何らかの成分が，還元剤の働きをしているんじゃないかと僕は思っているんですが。とにかく大根おろしのついたお椀を，緑青とか明礬とか薬品の入った寸胴鍋で，半日くらい煮込む」…（136 ペ）

○…「彫金はですね，金とか銀とか，場合によってはプラチナとか，貴金属を使うので材料にお金がかかるんですよね。だから，学生はみんな相場をチェックしてます。安い時に買いだめしておくんですよ」…（141 ペ）

○…「彫金をやるようになってから，貴金属のありがたみを感じるようになりましたね。料理屋さんに行っても，食器の素材がわかるんです。このスプーン，本物の銀だ！とか。さすが高級店だって，テンション上がっちゃいます。本物は重みがあるんですよね」…（141 ペ）

○…「そういえば，呼び込みを絶対撃退するワザをこないだ見つけたんですよ」「どんなほうほうですか？」「でたらめでいいんで，中国語っぽい言葉で元気よく会話するん

です。呼び込み，絶対声をかけてきませんよ。むしろ U ターンして戻っていくくらいですから」…（163 ペ）

○…「…声楽科って，カラオケがダメな人，多いんですよ。他の科のほうがずっとうまいです。別分野なんですよね。J－POP とか，声を思いっきり出さなかったりとか，話し声のようだったりするじゃないですか。ああいう歌い方，声楽ではしないんで」…（191 ペ）

○…「そんなに安い納豆があるんですか？」「タレなしのものであれば，その値段であります。醤油をかけて食べます。タレつきの納豆は贅沢品ですから……頑張った自分へのご褒美として買うものです。今度食べ比べてみてください。やっぱり百円の納豆は豆が全然違いますよ」…（194 ペ）

○…「アートは一つのツール，なんじゃないですかね。人が人であるための」（209 ペ）

○現代では数学を意味する「マスマティクス」は，古代ギリシャでは学問全般を意味する言葉であり，哲学や数学，自然科学と一緒に音楽も含まれていた。（229 ペ）

○オルガン専攻の本田さんは，最後にこんなことを言った。「音楽って，生きていくうえでなくてもよいものなんです。でも，長い年月をかけて発展してきました。やっぱり……なくてはならないものなんだって思っています」なくてもよいのに，なくてはならない。音楽を所持しているのは人間なのだろうか。それとも人間を所持しているのが音楽なのだろうか。僕はしばし，考え込んでしまった。（230 ペ）

この本は借りてから 3 カ月以上，読めなかったのだが，4 月 7 日（金）に「抜き書きするだけで十分だ」と気がついた。気がついたら，2 時間で全部に目を通すことができたし，このメモの抜き書きが完成した。あ～スッキリした！

◎門田由貴子著『選ばれる人になる 34 の習慣』（ダイヤモンド社・2011 年）

タイトルから察しがつくとおりの「自己啓発本」そのもの。ただし，内容は深いものを持っている。最も気になったところを引用する。ここに，仮説実験的認識論に近似したポパーの考え方が，2011 年現在，社会にどの程度普及しているかということの貴重な一例を見出すことができる。板倉聖宣氏の仮説実験的認識論はまだまだこれから大いに普及する余地があることが文体からわかるような気がする。

○習慣 31　実験を仕掛けて，進化する

選ばれる人は，勉強したことを学習に発展させて力とチャンス，結果を手に入れます。そのために有効な方法が実験です。

よく私は社内研修やコンサルティングの場面で,「勉強と学習は，別ものです」という話をしています。

「勉強」とは，本に書いてあることや他人が話す内容を理解すること。つまり，受動的に情報を受け取り，理解する行為です。

これだけでは，いくら勉強しても，あなたは会社にとって少しも役に立つ人間にはなれません。ただの物知りで,せいぜい屁理屈をこねるのがうまくなるだけでしょう。

社会人に期待されるのは，むしろ「学習」です。

学習とは，勉強してアタマで理解したことを実際に実行してみて，実務のなかで試してみることです。いままでやってきた行動に，勉強して新しく獲得した情報や知識を付け加えて，いままでとは一味違う行動に変換するのです。つまり，試行錯誤。

ここで大事なのは，意図的に「実験」「テスト」をして，その結果を検証することです。

実験やテストなのですから，もしかするとうまくいかないこともあります。予想外の反応が起こることもあるでしょう。その実験結果をしっかりと受け止めてみてください。そこで，感じること，納得できたこと，疑問に感じること，実証できたことが，すべて実験結果という収穫ですから，それをポジティブに受け取りましょう。

一度試してみてダメでも，それであきらめないでください。方法を少し変えてみたら，相手や対象，タイミングや表現を変えてみたら，うまくいくかもしれません。実験方法にバリエーションを加えて，もっといろいろなパターンを試してみましょう。

もしも大失敗したり，誰かから怒られてしまっても，それも収穫です。「あぁ，この

方法は成功確率が低いんだ」「あら，この方法はこの人には効果がないのね」と理解できるのですから，実験前より少し賢くなったと考えればいいわけです。

毎日の一瞬一瞬は，すべて実験です。

自分なりに「この方法がベストではないか？」と思える方法を選んで，この仮説が正しいかどうかを確かめるために，実際に試してみればいいのです。その結果を冷静に受け止めて，「次はもっといい結果を出すために，どこをどのように変えてみればいいのか？」と考えれば，次のもっと有効な方法が見つかるでしょう。

じつは，これは，政治哲学者カール・ライムント・ポパーが提唱した「可謬主義」という考え方です。彼は，「この世界に絶対的真理などは存在しないのだから，よりよい社会や状況をつくり出すには，仮説を提示し，行動することで検証し，その次の一手を考えることを継続すればいい」と主張しました。

私たちは，少しずつ工夫を加えながら実験することで，毎日少しずつ成長し，賢くなっていけるはずです。これこそ，「学習」です。

「学習」をうまく進めるために，「勉強」して知識を手に入れ，その知識を使って自分の行動を変化させ，その効果を慎重に把握しながら，自分なりの成功法則を作り出していきましょう。これが成功する人が常に意識している学習方法です。

さて，「勉強」と「学習」の違いをご理解いただけたでしょうか？

選ばれる人になるために，ぜひ，「学習」をしていきましょう。

→　おすすめアクション　勉強して得た知識を使って，実務のなかで工夫を加えて，実験し続ける！

＊

ポパーがここまで仮説実験的認識論に近い考え方を言っているとは知らなかった。他にも引用してみる。

＊

○習慣 33　オーディションに応募する

選ばれる人は，オーディションに応募しています。

「オーディションなんて，芸能人でもモデルでもないから，関係ない」と思わないでください。

人生もキャリアも絶えずオーディションが行われ，毎回ふさわしい人が選ばれているのですから。

「この指とまれ」という具合に，協力者を募集する企画があったときに，「はいっ！」と手を挙げるか挙げないか。新しい仕事がスタートするときに，「私にやらせてください！」と言うか言わないか。このちょっとした勇気を出すか出さないかで，チャンスをつかむ確率が桁違いに変わります。

誰かから指名されるのを待っていたのでは，いつになっても大事なチャンスはつかみ取れません。

もちろん，勇気を出して手を挙げても，「あなたは結構です」と相手からお断りされることはあります。でも，それは，たまたまその企画の条件には合わない，というだけのことであって，あなたの人間としての価値に傷がつくわけではありません。

それより，落選することを怖がって一生手を挙げなかった，誰の目にも留まりません。

まずは，あなたの存在を多くの人に知ってもらうことから始めましょう。そのためには，落選を恐れずに，とにかく手を挙げ続けることが大事です。

応募条件の細かい点にこだわるのも，やめましょう。100％完璧な理想どおりのチャンスを待ち望んでいるうちに，時間ばかりが過ぎ去ってしまいます。全体の 70％が合意できるなら，それは十分に応募するのにふさわしいオーディションです。理想どおりの役ではなくても，たとえ端役でも脇役でも，舞台に立つことが大事です。ひょっとすると，主役よりあなたの活躍がキラリと輝いていて，次の主役に抜擢されるかもしれないのですから。

ところで，手を挙げる以上は，できることなら合格したいですよね？

だから，自信を持って合格できるように，日ごろから準備しておきましょう。

人生は，毎日がオーディションです。いつでもチャンスが足元に転がっているのです。ですから，いつでも手を挙げられるよう，準備万端でスタンバイしていましょう。

→　おすすめアクション　「募集」という言葉を見つけたら，応募・申請・立候補してみる！

＊

「プロジェクターでチョークアート」に気づいたとき，即座に仮説社と研究会ニュース編集局の岸広昭さんに連絡し，上田仮説サークルの掲示板に投稿できた自分を自分で褒めたいと思う。渡辺規夫さんや増田伸夫さんの励ましがなければ途中で「風圧」に耐えられなくなったかもしれないと思う。

この仕事をしているとき，チョークやシャープペンシルなどの道具たちが私に何度も「ボクを使って！ボクはここにいるよ！」と語りかけてくるような気がした。これはきっとこの時の私自身の魂の叫びだったのだ。

＊

もう一つ応募したことがある。武田科学振興財団の 2017 年度「高等学校理科教育振興奨励」である。締切は先日，4 月 14 日（金），テーマは「気体の拡散を効果的に視覚化する古典的実験を現代化（今日化）する試み」である。決定通知は 8 月下旬とのこと。結果がどうであるにせよ，応募というものはそれだけでワクワク感があって楽しい感じがする。この応募関係書類は 3 月 28 日（火）朝から午後にわたって一気に仕上げ，帰宅寸前の藤田校長の職員をもらうことに成功。速攻でネット応募。これだけでもチョットした達成感があった。2016 年度に申請した H・K さんの申請書類が大変参考になった。

＊

読書や抜き書きなどの調子が今ひとつの時には，ハウツー本や，自己啓発系の本を読むと，流れを好調に持っていくことができるような気がしている。また，次のような記述もあった。

＊

選ばれる人は，週に最低でも 1 冊の本を読んでいます。つまり，読書習慣を身につけています。…（中略）…

ですから，言語表現力に磨きをかけて，鮮やかに意見やアイディアを提示できる人になりましょう。

そのために最適な行動が，読書です。それも，推薦図書を 1 冊や 2 冊読むというレベルではなく，読書を生活習慣の一部にして一週間に 1 冊以上のペースで，本を読み続けていきましょう。

読書の目的は，情報収集だけではありません。

読書習慣で，幅広い知性や教養，ものごとを深く考える力，大量の情報を取り扱う情報処理能力，論理展開力などを養うこともできます。これらは，短期間の付け焼刃では通用しないので，習慣化が必要です。

「本は読まないけれど，インーネットで毎日ニュースや情報を読んでいます」

最近はこういう人が増えていますね。その本人にしてみれば，見ているのが紙か画

面かの違いだけで，読むという行為に変わりはないだろう，と思うのでしょう。

しかし，ネットサーフィンでは，読書習慣の効果は期待できません。

その理由は，情報量の違いにあります。

インターネットで読めば一つの記事は，せいぜい 4～5 ページの分量，1 冊の本に比べると，どうしても情報が少ない。薄い，狭い，そして，浅い。情報量が違えば，当然，内容の深さや広さ，視点の高さも違います。

それに対して，本 1 冊分のボリュームでは，一つのテーマについて深く多方面から情報が提供されていてます。それだけの大量の情報を，アタマに丸ごと全部入れて，関係性も含めて丸ごと全部を理解しようとする行為が，情報読解力や情報処理能力を高めて，それが思考力や幅広い教養になっていくのです。

だから，ネットサーフィンでの情報のつまみ食いをやめて，しっかりと本を読むことをおすすめします。

さらに，「最低でも週 1 冊」という量にも意味があります。変化のスピードが速い時代では,新しい情報を常にインプットし続けないと時代に取り残されてしまいます。

読書を習慣として継続していないと，読むスピード，理解力，情報処理力，思考力などは，急速に低下していきます。つまり，アタマが退化してしまうのです。

ですから，呼吸をして酸素を取り入れるのと同じような感覚で，毎日，目から活字情報をどんどん流し込んでいきましょう。目と脳がそれに慣れてしまえば，読書は全く苦になりません。

しかも読書には，もっと現実的なメリットがあります。あなたを，アイディア豊富な「デキる人」に変えてくれるのが読書習慣です。

「デキる人」と「普通の人」の違いは，どこにあると思いますか？

「普通の人」は，上司から指示されたことを，指示されたとおりにやる人。

それに対して「デキる人」は，指示されたことを完璧にやり遂げて，さらに，自分なりのアイディアや意見を提案し，創意工夫を加えて，上司の期待を超えるアウトプットを出す人です。

この「デキる人」が出すアイディアや意見の源が，読書です。

なぜなら，新しいアイディアとは，すでに脳の中に存在している情報や記憶を組み合わせて，バリエーションを変えて導き出すものだからです。よいアイディアや鋭い意見を提示するためには，日頃から脳の中に，材料となる新鮮で良質な情報や知識を

たくさん蓄えておかなければなりません。

冷蔵庫と料理の関係を思い出してください。おいしい料理を作るためには，冷蔵庫の中に新鮮で良質な食材を準備しておく必要がありましたね？それと同じです。

読書習慣によって多様な情報を大量にインプットしておけば，あなたの脳は新鮮なアイディアとヒラメキの宝庫となるでしょう。

雑学でも構いません。いつ，何に，どのように役立つかは，わからなくても構いません。

日頃から継続的に，多様な情報を脳に取り込んでおきましょう。

あとは，それがヒラメキに化ける瞬間が来ることを信じて待つだけです。（74 ペ）

＊

選ばれる人は，会議で発言するときや，いわゆる「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）」の前に，話すべき内容を整理して，メモをつくって準備をしています。

そのメモの内容は，たった 3 項目で構いません。

① 結論または自分の意見，②その根拠や客観的な事実，③今後の見通しや依頼事項
　―これだけです。

この 3 点を短く簡潔に伝えられるように，あらかじめメモをつくっておくのです。

誰だって会議ではカッコよく発言したいし，上司に向けてテキパキとホウレンソウしたいですよね？

でも，何の用意もなしで，いきなりその場でカッコよくプレゼンしたり，説得力のある説明や依頼ができるわけはありません。

そこで，カッコよく印象よく発言するためには，事前に簡単なメモをつくって準備しておけばいいのです。発言内容 3 点をメモにまとめるなんて，1～2 分でできるのですから。…（中略）…

大統領のような大演説ができる必要はありません。会議やホウレンソウの場面で，簡潔にポイントを伝えられれば，それだけで十分です。

ポイントを簡潔に整理したメモを片手に持っているだけで，誰にでもわかりやすく伝えることができるのですから，こんなに効果の高いツールはないと思います。

ぜひ，発言する前に考えてメモを作ることを習慣にしてください。

＊

選ばれる人は，受け取り上手です。特に，一般の人が気づかないものや，目に見え

ないものを多く受け取っています。

といっても，特殊能力があるというわけではありません。

日頃から感受性やセンスに磨きをかけているので，受け取れる範囲が広いのです。

感受性やセンスが鋭くなると，人と会話しているときに，相手の話を聞くだけではなく，人の表情や態度から，相手の気持ちや本音を読み取るのがうまくなります。本を読むときも文字を見るだけではなく，行間を読み取って，著者が伝えたいと願うメッセージを深く味わうことが得意になります。

＊

この本は，良くあるタイプの自己啓発本である。2～3 時間でサラッと読めそうな，検索で類書がたくさん見つかりそうな「普通の本」だ。ただ，2017 年 3～4 月の私にはとても共感できる部分が多く，特筆すべき本だと思う。後々のためこのことは特に強調して記しておく。

◎鈴木博毅（ひろき）著『図解・今すぐ使える！孫子の兵法』（プレジデント社・2015 年）

コンビニ店頭に並んでいる物を立ち読みして気に入り即買い。大判（A4 判）の本のため持ち歩かずに仕事場（化学研究室）に置いておき，ストーブに当たりながらゆったりと眺めるように目を通した。見開きの右側に本文，左側に図解があり，高校生でも読みこなせそうなつくり。

『孫子』の兵法を知っているだけで，何かカッコイイ…という気がして買ってみた。期待に違わず内容は重厚で，冷徹・冷酷とでも言うべき私好みの「毒」があって，とても良かった。この春，教師生活で初めての担任になる隣席の M さんに紹介して，ほとんど無理やり読んでもらった（私は彼女の指導教諭であるから，一読を勧める「権限」がある。これを「活用」した）。自分の口から「M さんはこれから 240 人の部下の運命を左右する管理職になるのですよ」という言葉が出て，自分でもギョッとした（この言葉を発しながら昔，渡辺規夫さんから「教員は《将校》である」という趣旨の話を聞いた記憶があることを思い出した）。

翌日，M さんから「普段は考えないようなことがたくさん書かれていて，とても勉強になりました」との感想を聞いた。一読を勧めて良かったと思う。

「まえがき」から一部引用，紹介する。

＊

…『孫子』は古代中国の呉という国で，湘軍だった孫武が書き上げた，戦争に勝つための戦略書です。…彼の英知を道具として使うとすれば，今何ができるかを分析しています。現代の私たちの人生にも，さまざまな場面で「勝負」が存在します。受験勉強，就職活動，ビジネス，人生，恋愛，結婚，子育てなど。…『孫子』は約 2500 年間，勝者を支える最高峰の戦略書であり続けています。…『孫子』はおもに将軍職を対象に書かれており，その立場は現代ビジネスならマネージャー職にあたります（柳沢注：学校に応用するならば，学級担任も立派なマネージャーである。）。リーダーである人物が，会社や組織，チームの中でどのような活躍をすべきか。日本，海外を問わず，経営者や管理職に『孫子』の愛読者が多いのは，単なる兵法ではなく，人間という存在への鋭い洞察が含まれているからでしょう。…人間の本質，それを深く知る者ほど，人間で構成されたこの社会では多くの勝利と幸せ，そして富を手にしているのですから。…『孫子』は長い歴史で読み続けられた戦略書ゆえに，ある種の冷酷さが感じられます。同時に，その行間に，孫武の一つのメッセージが強く込められていることを感じられます。「生き残れ，かならず生き残れ。そうすればチャンスは巡ってくる」国家が滅亡すれば，再びのチャンスはありません。だからこそ，すべてを失う大敗北だけは，なんとしても避けねばならない。人生においても，けっして 100％の敗北はしてはいけない。そんなことをする必要もない。勝てないなら，完全敗北を防ぐ。逃げることも一つの重要な選択肢。最後の最後に，あなたの前に訪れる勝機をつかめることが，何より大切なのですから。

＊

私はこの「まえがき」を読んで，牧衷さんの「上手な負け方」や板倉聖宣さんの「正しい負け方」を連想した。全 40 章から成り，どれも良いことが書かれているが，ここに一章だけその概要を紹介する。

＊

27 事を起こすときは主導権を握ることに注力する――主導権を握られた後に勝負に出ることの無意味

■主導権を握ることに貪欲になれ

『孫子』を読むと，戦場には三つの時間帯があることがわかります。①主導権がまだ定まっていないとき，②実際の戦闘，③戦闘の結果，大勢が決定したとき。

主導権がまだ定まっていないときは，言ってみればプロジェクトリーダーを捜しているときです。手を挙げて，存在感を示すことができればリーダーになれる時間帯です。営業なら，提案見積もりが募集されている時期にあたります。

実際の戦闘とは，決定したチームで活動をするときです。

大勢が決定したときとは,物事に決着がついた時期のこと。プロジェクトで言えば，成否が明確になったとき。営業であれば，どこの企業が受注するか決定したときでしょう。

「勝機を見出したときは，すかさず攻勢に転じなければならない」

「攻めにまわったときはすかさず攻めたてて，敵に守りの余裕を与えない」

「あらかじめ勝利する態勢をととのえてから戦う者が勝利を収め，戦いをはじめてからあわてて勝機をつかもうとする者は敗北に追いやられる」

『孫子』の言葉からうかがえるのは，主導権がまだ定まっていない時期の時間密度が重要だということ。

この時間帯で勝負をかけることで，残りの時間帯の成果が完全に決まるからです。

主導権が定まっていないときこそ，全力で勝負をかけるときです。

プロジェクトリーダーが決定したあと，立候補しても意味がありません。

■敗北者は時間について驚くほど無知である

主導権が定まっていない時期には，誰にでも平等にチャンスはあります。

しかし，これは一瞬で終了する時間帯でもあります。運命の女神が，誰にこの機会を託そうか，あたりを見回しているときなのですから。

敗北者は，三つの時間帯にあまりにも無知です。時間の密度がいつも同じ。今ではなく，あとでがんばっても同じだろう，という姿勢なのです。

勝者は万難を排して，この機会を活かすために運命の女神に殺到します。

主導権を握れば，それ以降の時間帯を驚くほど有利に，幸せに過ごせるからです。

『孫子』が「速さを重視する時間帯」とは，主導権が宙に浮いているときです。

リーダーが決まれば，プロジェクト中ずっと立場は変わりません。その機会を逃せば，永遠にチャンスは巡ってこないのです。勝者は戦場の三つの時間帯を驚くほど意識しています。戦場の時間帯に鈍感な敗者は，常に勝利と幸せを誰かに奪われ続けるのです。

■まとめ

戦場を区切る，三つの時間帯の最初にすべてを集中する。主導権を手に入れることに，最大の努力を注ぎ込むべし。（この章の引用終わり）

＊

こういう文書が，他にもたくさん書かれている。私はチョークアート関連の仕事をしながらこの文章を読んでいた。読んでいるうちに，なぜかこの世がとても愛おしくなってきた。

私たちに与えられた時間は宇宙の歴史に比べればほんの一瞬である。その一瞬がいつまで続くか誰にもわからない。だから，この文章を読んでから，私にはライバルができた。それは「それをしなかったときの自分」である。

私はこの本を「消化吸収」し終わったら，ただちに息子と娘とに読ませたいと思っている。受験勉強や恋愛，子育てに応用させたいと思っているからだ。

◎前田康裕著『まんがで知る教師の学び』（さくら社・2016 年）

「お子さまランチ」本。デール・カーネギーの『人を動かす』が推薦書として挙げられているのはよい。ただし，その紹介文に「（カーネギーは）強い要求を起こさせる（ことが大切な原則だと書いている）」と書いてあるのがいけない。「要求」ではなくて「欲求」だろう。著者が十分にチェックしていないこと，編集者が『人を動かす』を読んでいないことがバレバレになってしまう。これでは「出版はバカの拡大再生産」（川柳）である。気をつけよう。

それでも，全般に教師の心構えとして大切なことが数多く押さえられているのは事実だから，たまにサラッと読んで自己点検に活用すれば有用だろう。

◇次回以降の予告

◎ローレンス・A・カニンガム著／長尾慎太郎監修『バフェットからの手紙（第 4 版）』（Pan Rolling 株式会社）（私物）

◎飯野高広著『紳士服を嗜む』（朝日新聞出版・2016 年）（私物）

◎広瀬和生（かずお）著『談志の十八番―必聴！名演・名盤ガイド―』（光文社新書・2013 年）（私物）

◎吉田敏浩著『「日米合同委員会」の研究』（創元社・2016 年）（私物）
◎川島隆太監修・横田晋務（すすむ）著『やってはいけない脳の習慣』（青春出版社・2016 年）
◎板橋悟（いたばしさとる）著『なぜ分数の割り算はひっくり返すのか』（主婦の友社・2016 年）
◎水島広子著『自己肯定感，持っていますか？』（大和出版・2015 年）
◎井手英策（えいさく）著『18 歳からの格差論』（東洋経済新報社・2016 年）
◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『オードリー・ヘップバーン』（筑摩書房・2015 年）
◎佐渡島庸平・里中満智子他著『人生と勉強に効く学べるマンガ 100 冊』（文藝春秋・2016 年）
◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『岡本太郎』（筑摩書房・2014 年）
◎NHK スペシャル「私たちのこれから」取材班編『超少子化―異次元の処方箋―』（ポプラ新書・2016 年）
◎川名壮志（そうじ）著『密着・最高裁のしごと――野暮で真摯な事件簿』（岩波新書・2016 年）
◎瀬木比呂志著『絶望の裁判所』（講談社現代新書・2014 年）（私物）

◇まとめ・つぶやき

〔2017 年 4 月 14 日（金）脱稿予定〕こういう締切の設定をいつかやってみたいと思っていた。サークル例会の一週間前に締め切って，それ以降は翌月号（5 月号）の作成に入る。いま，3 月 22 日（水）だから，サークル例会のちょうど一カ月前。はたして，この「野望」は実現できるのか。書いておくと，実験になるので実現しようという意欲が湧いてくる。情報は「流れ」だから，たぶん私の中に「仕事の流れ」を作っておいた方が良いのだ。読書，メモ執筆，印刷製本をほぼ同時にやっている方が，情報の「流れ」に乗れているような気がする。私にとって読書メモを作って発表することは情報処理の演習である。上田仮説サークルの HP（＝ウェブサイト）で研究の成果を発表してもらえることはとてもありがたいことです。読者が想定できるだけで，執筆動機が高まります。管理者の渡辺規夫さん，いつもありがとうございます。（ここまで 3/22 執筆）

〔2017 年 3 月 17 日（金）20:23 メモ〕情報にはたぶん，行きたいところがある。それは，その情報を必要としている人だ。私が情報を取り入れることは，同時に，情報が必要な「のりもの」に乗るということだ。この考え方はドーキンスの『利己的な遺

伝子』に似ているような気がする。（4 月 7 日，入学式の翌日，手書きメモから転載）

「きょうの格言」を思いついた。忘れないうちに書いておく。

一つ目は「商品は肥大化する」。（2017 年 4 月 13 日現在，google ではこの格言は発見できなかったので，柳沢オリジナルということになる）これは，苺，ニジマス，ポッキー，テレビ，フォルクスワーゲンゴルフ，万年筆，交響曲…などを思い浮かべるといいと思う。新種や新商品が出たりモデルチェンジをするたびに商品は大きくなっていく。ただし，例外としてパソコン関連部品，シベリウス作品，ショスタコーヴィッチ作品などがあり，これらの場合は逆に小さくなっていく。

二つ目は「展覧会　始まったとき　終わってる」。芸術家が展覧会を開く場合，作品の制作は，展覧会が始まったときには終わっているということ。ひるがえって，受験についても同じ。試験場で受験しているときには，すでに受験勉強は終わっている。…ということを授業の感想文を書いてもらったところで思いついたので，ここに記しておく。考えてみれば授業についても同じ。「授業にベストを尽くす」ということは教師にとっては特に「入念に準備をしておく」ことである。その場になって頑張っても成果はたかが知れている。つまり，何事も準備が大切ということだ。

〔2017 年 4 月 18 日（火）脱稿〕予定より遅れたが，理想にかなり近い形で脱稿できた。これから 4 月例会で発表する別のレポート（教材開発）に取りかかる。締切に余裕があると，遅れてもさほど慌てずに悠々と研究などが進められることがわかった。

最後までおつきあいいただきありがとうございました。次回分の執筆に今日中に取りかかる予定。（終）